

同じ人に

一八七一年十二月二日(十四日) ドレスデンにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、此度はあなたの方で、直ぐに私が御手紙に返事をしなかつたことを許して下さい。凡ての心配事は、私の力以上です。あなたは、ザリアに約束した文章、小説のことを私に御話しになる。久しい前から、私はあなたの問ひを恐れておりました。私は何と御答へしていいでせう。今は、全く私は荷が勝ち過ぎておられます。私のルスキイ・ギエストニクとの約束は、言はゞ、負債です、即ち、私はそれに、非常な額の債務者となつてゐるのです。彼らは私を責めません、私を最も禮儀ある最も立派な態度で取り扱つてくれます。正しく本當のことを言へば、私がルスキイ・ギエストニクの爲に思ひついた短篇、(寧ろ長篇です)は、去年(一八六九年)の終りに書き始められたのです。それが十五帖以上に増加するとも、私は七月までにそれを書き終りたいと思つておりました。私はザリアの爲に書けると全く信じて居りました。さて、私は一年中、紙を破つたり、書き變へたりしませんでした。私は紙敷を澤山書いたので、既に書いたものを知る爲の系統をすっかり失つて了りました。私は少くとも十編は計畫を變へました。そして、更に、第一篇全部を書きました。二三ヶ月以前、私は絶望して了りました。とうとう、凡てのものが、同時に、出来上りまして、もう書き改へることは出来ま

せんが、三十帖か五十五帖となりさうです。私が急がずに(定まつた期限なしに)書く暇があれば、それから、何かいゝものが出来上るかも知れません。然し、儲かに、あれよりこちらが長い、のびくになつた部分があります。私は凡て十帖書きました、五帖はもう送りました、もう五帖は十五日中に送ります。それから、書き終るまでは、私は毎日、黒坊のやうに働いてせう。私の境遇は斯うです、今、私はどうしてあなたに肯定的の御返事をする事が出来ませう。

私がおあなたに書いた一切のことは、最後の言葉に至るまで、純粋な眞實であることを、よく信じて下さい。

それで、私は、まる一年中、小説の計畫に苦しむことを、前以て知ることが出来なかつたのです。(本當に、苦しんだのです。)

最後に、ザリアと此夏した約束を果さんが爲、此小説をすてゝ、ザリアの爲に他の小説にとりかゝつたとしても、それは、物質的に書くことが可能だつたでせうか。それを御承知下さい。(私はどうしても今の仕事を捨てると言ふことは出来ません。明に、其は私に斯くも悲しく高價なものとなつたのですから。私はあなたに訴へます、作家の境遇を微妙にあなたの御知りになることに訴へます、それが可能であるか、あなた御自分で御決定下さい。)

斯うして私は書いてゆくでせう。けれども、私には未來が解りません。私には一事しか解りません。小説の第二の半分は、第一よりも一層私に容易に書きませう。もし、私がか夏書き終つたなら、(それは屹

度健かです。年の終りに、ザリアに、短篇か、長篇の始めかを出しませう。(即ち、此長篇の始めは、それ自らで別れた一つの小説となるでせう。)あなたは、題を御尋ねになる。私はそれを御報らせする事が皆出来ません。問題なのはかうです、私が想像し、よく覚えてゐる是らの小説は、六つあります。——は、熱心にその仕事をし始めなければならぬやうな種類のものです。然し、私が自由であつたら、即ちいつも金ばかり必要でなかつたら、私はその六つの中の一つ丈を書くやうなことはしないでせう、私は直ぐに、私の未來の小説にとりかゝるでせう。此未來の小説は、もう、三年以前から私を苦しめてゐます。然し、それを書き始めません。何故と言つて、私は急がずに、トルストイ、ツルゲネエフ、ゴンチヤロフの書くやうに、それを書きたいと思つてゐるのです。せめて、私には、自由であつて、定められた期限の爲めに書くと言ふことをしない著作が、一つでもありたいものです。私は此小説を、私の文學的生涯の最後の言葉として見なしてゐます。その題は、「大罪人の一生」と言ふのです。(譯者曰、此「大罪人の一生」の第一編は、後年發表せられたる「カラマゾフの兄弟」にして、つまり、此六つ續きの小説の大計畫は、僅かに端緒につきたるのみにして、ドストイェフスキイは未完了のまま永久に謎を残して死せるなり。)それは、自然と、一連の小説に分れてゐるのです。然し、七月、ルスキイ・ギエストニクの爲に書き終つたとしても、今年それを有き始めるか如何か解りません。斯く、一切のことは、時に關してゐます。私は今、その題をあなたに御報らせすることは出来ません。來年の四月の終りか、五月に、我々が出會つてから、御話しませう。(私は小説で手間取ることを、従つて、金で手間どることがな

つたなら、秋には、サン・ペテルスブルグに歸るでせう。今、十二月では、子供に旅行させることは出来ません。そして、私は春まで、こゝに止らなければなりません。その時、書き終ると言ふことに就いて、編輯局でとにかく私と御約束して下さつていゝと言ふことを申し上げませう。(證書なしで)。そして、どんなことが起つても、私は約束を守りませう。(御注意。——私は白状しなければなりません、例へ、その著作が私に尊いものであるにしても、私は、強く、頭に血を漲らし始めませう。私は病氣になりはしないかと恐れてゐます。然し、ルスキイ・ギエストニクの小説は、今年私を粉碎して下しました。)

あなたは、ピセンチスキイや、クリュシニコフのことを御話しになります。然し、ピセンムスキイは、非常に興味のあるやうに書きます。彼らの名前は、何人の注意も引かないとお書きになります。それでは斯うして下さい。あなたは、來年寄稿者として、トルストイ、コカノフスカヤ夫人、ピセンムスキイ、クリュクニコフ、チャエフと私といろ／＼あると御書きなさい。そして、それが非常に都合のいゝことを御信じ下さい。然し、美文として、是以上のものを與へることが出来る雑誌に何があります。來年は、ザリアの傾向は、歐洲がロシアに對する政治的傾向の爲に、注意を引くかも知れません。とも角も、來年は、思つて見るに、東方の斯拉ヴ問題の解決なしでは済まされません。もし、來年の申込みが、十分でなかつたとしても、ザリアのやうな雑誌は勇氣を沮喪してはなりません。未來は、疑ひもなくそれを高めてゆくでせう、然も、近い未來にです。未來は此方向に屬してゐます。そして、虛無主

義者は、煙のやうに消えてなくなりませう。それは、問題を解決することに關してゐます。

あなたは、最近の雑誌に就いて、私の考をおきになりませう。大急ぎで述べるとは困難ですが、我々が會つたら、澤山長く話すことのあるやうに思はれます。私はどの位、心を打ち明けたか思ふでせう。私にとつて、ザリアは、非常に近かしいものなのです。雑誌の中で、それのみ、只ひとり、私の生命以上におく意見を、の考ふに所によれば、未來に屬してゐる意見を、擁護してゐるのです。現在の境遇は、にとつて、あまり満足すべきものではありません。の楽しみとせるあなたの論文の外には。然し、あらゆるものが長い長い主題です。あなたに對する小さい觀察は斯うです。同じ號に、アメリカに就いてのオゴロドニコフの論と、明に見解を異にするコンスタンチノフの「讀書と名聲」のやうな二つの論文をのせてはいけないやうに私に思はれます。

オゴロドニコフにとつては、ロシア人の中で只一人、アメリカの勞働者が如何に働いてゐるかと經驗の爲知りにアメリカの奥深く這入つて行つた學生のエ……が、彼の氣に入つてゐるのみで、彼は彼についてのみ尊敬して語つてゐます。そして、突然、同じ號に、コンスタンチノフの論が來るのです。

然し、私がそんなことを書いても無益です。あなたの論文の中で、私の不愉快に思ふことは一つしかありません。それはあなたが、稀に發表なさると言ふことです。彼が親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、斯様に、十一月號に、即ち、申込みの爲め最も重要な雑誌に、出さないと言ふことが出来るものでせうか。(十一月號では、いろいろの理由で、凡ての論文が非常に興味があつたことを私は申し上げねばな

りませぬ。あなたのものが、そこにあつたなら、二倍も一層面白かつたでせう。)

カラムジン論(あなたのものは、私の氣に入つたものです。何故と言つて、私の少年時代が斯様であつたからです。そして、私はカラムジンによつて育てられたのです。私は感動をもつて其をよみました。然し、その調子も同じく私の氣に入りました。凡ての人々が沈黙を守つてゐるものを、斯様に打切るやうな調子で、あなたは始めて言はれやうに思はれます。此辛辣な調子は私を喜ばしました。正しく、是以上の大膽さと、是以上の自己に對する非常な尊重が必要です。此論文が、あなたに敵をさへ造ると言ふことを、は少しも驚きませぬ。

ツルグネエフの「リア王」は、全く私の喜ばないものです。誇張に満ちた空虚なものです。調子が卑しいのです。誓つて言ひますが、私は嫉妬から言つてゐるものではありません。

さようなら、非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、私を忘れないで下さい、私の眞實の情を信じて下さい。我々が間もなく合ふと言ふことは可能でせうか。私は如何にロシアに歸りたいと思つてゐることとせう。アンナ、グリゴリエヴナは病氣です。さようなら、親愛なるニコラス・ニコライエギツチ、

あなたの

フィオドル・ドストイエフスキ

追伸、——アンナ・グリゴリエヴナがあなたに宜しく。

【二頁の餘白に】こゝには澤山のロシア人が居ります。今週、凡ての人々が集つて來ました(彼ら自

身の發起で、)そして、十月十九日のことに就いて、大臣に、書面を送りました。
その書面を起草したのは私です。

〔三頁の餘白に〕 凡てのものが私を忘れてるのではありませんが、凡てのものが私を見捨てたので
す。アポロン、ニヒライエギツチ、マイコフは健康ですか。

〔四頁の餘白に〕 興味ある時代が我々に來たとあなたは仰る。然し、今、明かに、あなたの傾向に、
益々興味ある時代は、近づいてゐるのです。

マイコフに

一八七〇年十二月十五日(二十七日) ドレスデンにて。

我々は、長い間御無沙汰しましたね、親愛な親切なアポロン・ニコライエギツチ。あなたが何かの理由で私を怒つてゐられるのか如何か、私は知りません。私にはさうでないやうに思はれます。凡て斯う言ふことを引き起したのは、恐らく、私の長く國に居られないことによるのでせう。けれども、(間もなく、私が外國に別れを告げ、我國に歸る時代が近い來ます。)私は過ぎた日の友達や仲間を思ひ出し、彼らのことを非常に考へて居ります。我々はどうして會ひませう、何を話させう、お互に、どんな印象をうけるでせう。要するに、私は新しい生活の時代が到來したことを感じます。そして、私は心がう

ら騒ぎます。アンナ・グリゴリエヴナは、苦しくなるまで、望郷の病にかゝつてゐます。然し、あゝ私は秋までうまく歸るやうには出来ません。私は一八七一年の五月一日頃に歸りませう、工合が悪るいのです。いゝですか、私はせめて半分なりとも、始末をつけると言ふ希望を失つては居りません。然し、凡てのことは、計畫の模様次第です。一つのことは慥かです、それは、私は歸國する日取りを變へないと言ふことです。私の現在の生活は恐ろしいものです。私が夜も晝も仕事を強ひてしなければならぬやうでなかつたら、私は非難の爲死んで了ひませう。私の健康はいつも同じやうです。一つのことが私を苦しめてゐます。アンナ・グリエヴナは、私は苦しんでゐます。私の娘は快活で健康です。

私は、殆ど力以上の仕事を負擔してゐます。私は大きな小説を書かうと思ひました、(問題小説です。——それは私にとつて非常に難かしいものです。)そして、私は、始め、容易に切り抜けることが出来ると思つてゐました。さて、私はもう十度以上も、書き方を改へました。そして、問題がわざとらしいのを認めました。それですから、各は自分の小説に對して非常に不満となりました。私が第一篇を書き終ることが出來たのは、やう／＼のことでした。(大きいもので、十帖です。四篇にはなりません。)そして、今それを送つたばかりです。それは大したものを含んでゐず、動果を與へないことと思つてゐます。第一篇によつては、讀者は、私が何を言はんとしてゐるが、どんな風に行動が變るか、推察さへもつかないでせう。ルスキイ・キエストニクからは、親切に返事をよこしてくれました、小説の題は、「悪魔」で(私が嘗てあなたに話したことのあるいつも同じ悪魔です。)福音書から取つた銘をつけました。私は、

現在の青年に、齒に衣させずに、私の考を知らしめやうと欲しました。それに、手紙の中で、何か言はうとして困難です。私がザリアに約束を守ることの出来ないのは残念です。彼らが私に寛大であつてくれ、私をずるい奴だと言はなかつたら、私はいつか、ザリアの意のままにとりかゝりませう。凡てを正確に見積ることは不可能です。まる一年で、私はやつと十帖書くと云ふことを御存知ですか。私はある時が過ぎなければ、ルスキイ・ギエストニクから身を引くことは出来ません。それから、ある一つのことを始めなから、他のことを企てることは出来ません。

アボロン、ニコライエギツチ、あなたに御頼みする非常に重大な御願ひがあります。然し、私が必要に差し切つた時でなければ、あなたに手紙を書かないとは信じないで下さい。私の御願ひは、無法なものです。此事件に信頼をおく人は一人もないのです。そして、それは非常に重大なものですから、ある言ひ廻しをすれば、此事件は私には、非常な災害を起すやうになるか、或は、私の一切の困難を解決するかも知れません。

ステロフスキイは、私の著作の発行と、「罪と罰」の発行を廣告しました。私はゴロス新聞でそれをよみました。(十二月十一日だと思ひます。)此版が新しいものか、古るいものか、又、ロシア作家集の形、(即ち、一版で、八つ折形のもの)で、発行されたか如何は、そこに書いてありません。然し、それは、古るい版で、八つ折形のものであるに相違ありません。何故と言ふに、さうでなければ、彼の契約によつて、三千ルウブルの賠償を拂はねばなりませんから。それですから、彼は新しい版を発行しやうと

はしないでせう。私にとつて重大なことは、彼が、「罪と罰」を発行したことです。それに對して、契約から、また、三千ルウブルの賠償を出さねばならぬやうになるから、直ちに私に金を仕拂はねばなりません。仕拂ひは、契約の條件に、斯様に定められてゐるに相違ありません。「罪と罰」の各帖毎に、(全く、ロシア作家集の形で印刷して、即ち、八つ折形、二段で)一八六六年彼が発行した私の著作集(その形で)の一帖の値段と同じ丈のものを正確に拂はねばならないのです。斯様に實證することは、雑作もないことです。舊臘の行數を勘定してみなければなりません。(彼、新刊した「罪と罰」を際いて、彼の版で。)そして、行數によつて、三千ルウブル(私があの時、彼から受取つた價)を分割しなければなりません。斯うして、私の値が解りませう。それから、「罪と罰」の行數によつて價を増して、(彼流の形で)列の彼から受けとるべき金額を出すことが出来ませう。此額は、約九百ルウブル位に私には思はれます。私は、これに就いて、あのあなたに書いたやうに記憶してゐます、それから、ステロフスキイはあなたにそのことを話してゐるやうにも思はれます。

私はあなたに繰り返へして申します、ステロフスキイは、私の始めての要求に、直ちに支拂ひを拒む何らの理由も、何らの可能性も持つて居ないので。何故と言つて、さうしなければ、彼は三千ルウブルの賠償金を支拂はねばなりませんから。それですから、彼は、拒むことは出来ないでせう。

今、私はあなたに御願ひする頼みは何だか申し上げます、彼に支拂を請求し、金を受けとることを御承諾下さいませんでせうか、(後生です。)あなたが御承諾なさるならば、正式に、事件は、下の如くになつ

て行くでせう。

あなたの御承諾を得て、私はこちらから、契約の條項によつて、此金を待る適法な絶對的に間違ひのない委任狀を、あなたに直ちに送りませう。此委任狀は、我がロシア領事館に於て、法律の手續きを踏むでせう。(斯う言ふ委任狀は、非常に適法で、間違ひのないものであることを私は知つてゐます。)同時に、私はあなたに一八六五年私とステロフスキイの結んだ契約の正確な寫しと、そして、こゝからステロフスキイに宛てた手紙(封をしない)をも、あなたに御送りします。

此手紙は次ぎのものを含むでせう。

啓。あなたは、私の小説「罪と罰」の出版を廣告なさいました、それはあなたの新聞廣告をよんで知つたのです。私が(あそことあそこで)お互に結んだ契約の其條項によれば、あなたは、私に屬する額を直ちに拂はなければなりません。そして、契約の其條項によれば、不拂ひの場合には、あなたは、私に三千ルウブルの法律上の賠償金を拂ふべきものです。私は今ドレスデンに居るので、此法制局のアポロン・ニコライエギボチ・マイコフに、あなたの發行した小説の爲私に拂ふべき金を受けとる爲、法律上の正しい委任狀、即ち、法律によつてロシア領事館によつて手續をふんだ委任狀を送りました。且つ私は、同じく、互に我々の一八六五年結んだ契約の寫しを、彼に送りました。それであるから、此手紙を受けとられた後直ぐに、我々の前に契約を結んだ爲替取扱人バルウリンの事務室で、アポロン・ニコライエギボチ・マイコフの手に、之を支拂はれんことをあなたに御願ひします。此事務所でああなたに委

任狀を渡して、金を支拂はれた後、契約書の原紙及び寫しに、署名をされ、又、その原紙及び寫しに、支拂つた金の受取りとして、アポロン・ニコライエギボチ・マイコフに署名せしめられんことを御願ひ致します。その後、支拂ひと受取とは、爲替取扱人、バルウリンによつて證明されませう。是ら凡てのこととは、私が、一八六五年、私の著作を刊行する権利のため、三千ルウブルあなたから受けとつた時したと同様の例と模範に従つてなされるべきものです。あなたの發行された小説、「罪と罰」の爲、私に支拂つて下さる額に就いては、アポロン・ニコライエギボチに、あなたと相談して、又、契約期限の長さに従つて勘定をきめることを委任しました。

以上が、私の書かうとする手紙の心持です。私はもつと法律上の形式をとることにしませう。

私の委任狀、寫し、手紙を受けとつてから、あなたのなさることは下の通りです。數行の手紙をステルフスキイに書いて、私の手紙を添へて送つて下さい。私の手紙の中で話した契約によつて、彼にその額を拂つて貰ふことが尤もであるとしたならば、私の送つた手紙によつて彼のなす所のことを、あなたが委任狀を受けとつたので、出来る丈早くあなたに言ふやうに、彼に言つてやつて下さいませんか。

それ丈です。私がああなたに御願ひすることは、それで全部です。私の爲に此役をして下さることを快よく思つては下さらないでせうか。アポロン・ニコライエギボチ。これは私がああなたに嘆願する最後の用事です。私はもうあなたに御頼みをして面倒をかけるやうなことはしませう。

アボロン・ニコライエザツチ、今、此事が何故私にとつて重大なことであるか、聞いて下さい。

いゝですか、此可なり大した額を支拂つて貰ふのは、私にとつて重大なことです。ステロフスキイがどんな口實を作つても、支拂ひを拒むことが出来ない丈それ丈重大です。何故と言つて、約束の頗る明々確々たる條項によつて、三千ルーブルの賠償を渡すべきことになるのを彼は知つてゐるからです。それで、私はあなたに、切に、しつこく御願ひするのです、何故と言ふに、私はこの場合少しでも大きな故障の起るわけはないと思つてゐるからです。何故と言つて、後にやつてくる所のことを知り乍ら、彼は拒絶することは出来ないでせう。

然し、金の償却の外に、將來と言ふことも亦、私にとつて重大なことです。此凡ての事件の中に、私の將來に影響する何物かと屹度起るかも知れません。それは斯うです、ステロフスキイは、一八六五年、D……に對する私の約束手形（私の兄の爲にした所のもの）とガヴリロフに對する私の約束手形を買つたので、直ちにそれを支拂ひ、牢屋に入れると脅かして、私の著作を得る恥づべき契約を私と結ぶの止むなきに至らしめたのです。私が歸るや否や、彼は、同じやうなことを私に對してなすかも知れませぬ。利益をもつて、即ち、只で、私の約束手形を買つて、彼は尙七年の間、私の新舊の著作権所有者となり、私が歸ると、一八六五年のやうなある契約を結ばしめるかも知れません。私には、そう言ふ想像をする理由があります。彼が一度成功をしたのに、何故また試みないことがありませう。今、それで、斯う言ふことを考へて下さい、もし、ある理由の下に、彼が、「罪と罰」の金をあなたに支拂はなかつた

ならば、(例へば、あなたに、彼が私の約束手形を有してゐるのでそれを所有するのだと言つたりしてでず、それは全く不法のものです。何故と言つて、手形は手形ですが、それでも、支拂ひは實行しなければならぬのです。)將來、私は彼に對して、要求的の防禦をしませう、彼から三千ルーブルの損害賠償を要求するのです、何故と言つて、契約の條件によつて、彼はどうしても、人の要求する時、正當の支拂ひを避ける能力をもたないのですから。

そこで、私はあなたに、非常に御願ひがあるので、彼が支拂ひを拒み、返事を遅らせ、何か理由を呈するならば、そこに證人が出來ると言ふいゝことになりませう。私の考では、その爲に、なすべき最も都合のいゝ最上策となりませう。

私が彼に送る手紙に添へて、あなたが始め傳言を送られる時に、あなたの手紙の中に、遅くとも三日以内に、返事をまつと書いて下さい。彼があなたに何にも返事をしなかつたならば、若しくは、彼があなたに返事を(どんなものであつても構ひません)勿論書面でない返事をしたとしても、結構、證人が出來ると言ふのは、こゝの事です。その爲め、なすべきことは斯うです、彼が三日以前に返事を避けてゐるなら、尙數行の手紙を送つて下さい。然し、郵便ではなく、誰か人です、(高價でないならば誰か代理人に行つて貰つてもいゝのです。私が拂ひませう。)そして、彼から、返事を(何であれ)とつてくるのです、然し、證人を前にしての返事です。斯うして、私は、ステルフスキイが私の名前で正式に彼に請求した金を拂はないと言ふ事實と、事實の證人とを得ることになりませう。それで私に十分で

す。彼はそうすれば吃度、三千ルウブル私に拂ふことになりませう。

我が非常に尊敬する友よ、斯うして、彼から只ある返事を得るやうされることよ、第三者、即ち、あなたの送られた人が、此返事を知ると言ふ事を、あなたに御願ひします。それ丈です。彼が避けたり、逃げたりせんとした時、必ず、金の支拂をうけんとする處置を講ずることに就いては、——絶対に必要です。どんなに實であつたにしろ、彼が支拂ひを拒んだと言ふこと丈で私には十分です。

然し、私はもう一度、それを繰り返して申します、彼があなたの最初の要求に支拂ひをしない、逃げ始めると言ふことは、殆ど想像することは出来ません。彼れは餘りに奇妙な狐です。そして、彼は自分の危険を冒してゐることを承知してゐます。彼は又、私が彼を許しはしない、彼をして損害賠償を拂はしめることを知つてゐます。それで、彼はあなたに支拂ひをしない、あなたの手紙に直ぐに返事をよこさない筈はないのです。そして、私の委任狀の外に、あなたが尙手許に、我々の一八六五年の契約の正式の寫しを持つて居られるから、事件が事務室の中で行はれるのであるから、私があなたにお渡しする委任狀の正式なことや、同じやうな外のいろ／＼のことを、少しも疑ふことは出来なうせう。事件は餘りに嚴格に、明白に、公然と運ぶでせう。そして、私は尙繰り返して申します、彼が拂ふことを欲しなかつたならば、それを言ひ張る必要はありません。私は斯様な要求をして、あなたの御迷惑をかけることは出来ません。彼に知らせ、返事をうる爲には、彼に四行位只書けばいいのです。

(御注意、——支拂ひは、その完全な落着をうる爲、バルウリンの事務所で行はれなければなりません。

(ネフスキイ廣場のどこかです。)然し、彼があなたの署名で、バルウリンの手をかけずに、只單純に金をやると欲するのなら、尙一層いゝことです、面倒がなくなります。

アポロン・ニコライエギツチ、拒絶しないで下さい。切に御願ひします。事件は特別な面倒をあなたに引き起すやうなことはないでせう。そして、あなたがさうして下されば、非常な仕事を私の爲にして下さることになりませう。

私はあなたの御返事を待つて居ります。此事件は私にとつて、非常に重大なものですから、どうぞ、非常に親切なアポロン・ニコライエギツチ、御願ひですから、此手紙を受けとつて、直ちに御返事を下さい、諾否の只二行でいいのです。

アンナ・グリコリエヴナが、あなた並びにアンナ・イヴノヴナに宜しく。アンナ・イヴノヴナに私の最も尊敬する御挨拶を申し上げます。

全くあなたのものなる

フィオドル・ドストイエフスキイ

ボオルは結婚したのですか。

同じ人に

一八七〇年十二月三十日 ドレスデンにて。

私は無限にあなたに感謝します、非常に親切なアポロン・ニコライエギツチ、第一は、あなたの私の爲にして下つた御深切と、第二には、直ちに御返事を下つたことにです。然し、あなたは封筒に、郵便局留置と書くのを御忘れになりました、そして、私はそれをドレスデンに着いて三日目にやつと受けとることが出来ました。郵便配達夫が、私の居所を知る爲警察に申出たのです。私はあなたに委任状を送ります、それをよんで、鐵面皮だなどとそしらないで下さい。人が私に断言したやうに、是ら凡てのことは、必要な形式に外なりません。のみならず、斯様な完全の権利は、ステロフスキイにも、印象強くなるでせう。外務局で、此委員状を法律的のものとしなければなりません。(ポオルが知つてゐますが)そこに、我大使館の署名を證明しなければならぬやうに思はれます。更に、私は、一八六五年の私のステロフスキイとの契約書の正しき寫しをお送りします。よんで下さい、私は非常に御願ひします。注意して此寫しを、殊に、八條と十三條とをよんで下さい。そして、あなたは、明かに、此事件の心底を看取せられるでせう。そして、どれ程、それが單純で疑ふ餘地のないものであるか御信じになるでせう。只、それにふれて見ると言ふ骨折をすればよいのです。それから、是以上御迷惑となるやうな用事をあ

なたに頼むことは、私の厭に思ふことです。私の考では、あなたが、事件を公然と、單純に、冷淡に(即ち、嚴然と)取りはからはればからはれる程、それはうまく行くでせう。私は封をしないで、ステロフスキイにやる手紙をあなたに送ります。重大なことは、あなたが、使ひに送る人を見つけ、(それが必要なら、大した金ではないから、ステロフスキイの拂ふべき金で、私は謝禮を拂ひませう。)あなたの方の短い手紙をそへて此手紙をステロフスキイに持つてゆくことです。(然し、送る人は、私の手紙を矢張、封をしないで持つてゆくのです。)あなたの四行の手紙の中に、さうして貰へるなら、バルリンの所に行つて、バルリンの事務所で、金を支拂つて貰へる日と時間とを報らせるやうに彼に申し出して下さい。それで、彼があなたの署名で支拂ふならば、彼のいゝやうにさせて下さい。

然し、彼が支拂はないと言ふことはありますまい。契約書第十三條をよんで下さい。彼が逃げたり、延引したりすると、不幸な日に會ひませう。そうすれば、あなたの送る人が警察に願つてもいゝのです。重要なことは彼が返事を與へると言ふことです。儘かに、それは餘り單純な事件で、遅かれ早かれ、私は支拂ひをうけるのです。然し、私は今、如何にさうして貰ひたいと思つてゐるでせう。私は、殊にルスキイ・ギエストニクに前借をしやうとは全く思ひません。然し、我々はその他に暮してゆく術がありません。

私は最近にあけた手紙のやうに、繰り返へして申し上げます、私は彼が拒むことが出来るとは思ひません。そして、彼はそんなことをするに如何なる理由をつけるか相像することさへも出来ません。然し

如何なる理由にもせよ、彼が支拂ひを拒む場合には、ある代理人に、書の寫しを委任状をお見せになることを切に御願ひ致します。彼はそれを何と言ふでせう。事件は疑ふべからざること、警察から支拂ひを要求することも出来るのです。その場合、代理人が、勝つとうけ合つたなら、事件が終つた後、金を支拂はう思ひます、それが比較的餘り高くないとすればです。(ポオルが何か役に立つてくれることは出来ないでせうか。)

とに角、繰り返へして申しますが、私のステルフスキイにやる手紙にあなたの數行の手紙を添へて、出して、何か彼から返事を得るやうに只御願ひするのです。それ丈です。大切なことは、遅引なく彼の返事を私にお報らせ下さるやう殊に御願ひします。私にとつて其は非常に大切なことです。それで考へて下さい、私が九百ルウブル受け取ることが出来るが、ルスチイ・ギエストニクに願ひをするかです。時に、かぞへて見て下さい。それは二瞬間で出来、新刊された「罪と罰」の帖數を知り、一八六六年、私の全著作の版の各帖が幾ルウブルにしたかその數で、かければよいのです。此ルウブルの價は雜作なく知れます。一八六六年、ステロフスキイによつて出版された私の著作三冊の帖數を數へ(いゝでるか、「罪と罰」を除いてです。)そして、此數で三千ルウブルを割らなければなりません。そこで各帖の價が解りませう。それに、契約書の第八條をよんで下さい。そこに、明かに書いてあります。さて、これ丈です。終ひの終ひには、彼は拒まないこと、恐く少し逃げをはるとしても、單純に支拂ふやうになると、私は信じてゐます。然し、養生ですから、大至急、私に報らせて下さい。

さうです、私は絶対に歸らうと思ひます、私は乾度春に歸りませう。こちらでは、私は非常に恐ろしい心地がするので、殆ど物を書くことが出来ません。物を書くことが恐ろしく私に苦しいのです。私は熱心にこちら及び我國の出來事を見まもつてゐます、そして、此四年の間に、私は大變年をとりました。私は孤獨の身にも係らず、非常に長く暮しました。將來、神が私に與へて下さることを、私は不平もなく受け入れませう。家族も亦、あなたの御心を聞かうとあなたを強ひてゐます。そして、とうとう私は社會の中に再び飛びこまうと欲するのです。

ストラホフは、我國の社會では、凡てのものが絶色をおび、非常に若々しいと書いてよこしました。然し、此四年間に、歐洲が、憎み嫌ふ迄に、如何に血なまぐさい悲哀を私に吹きこんだがあなたが御存知になつたら！ あゝ、我々は、如何に先入主見を、歐洲に對してしてゐるでせう。かのロシア人、(殆ど凡てのもの)が、プロシア人は、學校教育で勝つたのだと信じてゐるとは、何と言ふ幼稚なことです。そんなことを考へるのは、鐵面皮でさへもするのです。アツチラの鳥合の衆のやうに、掠めたり、苦しめたりする學校教育は、大したものです。(恐らくそれ以上でせう。)

全國民の精神が、今、フランスの中に、暴力に對して憤起しつゝあるとあなたは主張してゐらつしやる、然し、私は始めから決して、そんなことを疑ひませんでした。彼らが平命を經局にするに誤を犯さなかつたとしても、約三ヶ月間待つてゐたとしても、ドイツ人は、追ひ追はれて言ふでせう、その時は何と言ふ恥辱でせう。それを書くのは、餘りに長くなりませう、私はこゝで觀察する妙な事實、例へば

如何なる方法でこちらからフランス出兵を送るか、如何にそれを召集するか、如何に製兵をととのへるか、如何に食糧をやり、送兵するかと言ふことを、私はあなたに御報らせることが出来るかも知れません。それは非常に興味あることです。例へば、不幸な貧しい婦人が、三つの室を借りて生活して、それを轉貸してゐるのです。(それで、彼女は、二錢の財産を有してゐる譯です)何故と言つて、彼女は道具をもつてゐるからです。その彼女が、自費で、十人ばかりの兵卒をとめ、養はねばならないのです。彼らは、そこに三日、二日、一日、稀には一週間も宿ることがあります。然し、それは彼女に二十から三十タアレルの損害となります。私は儕言、フランスのバリーの極近くから、母や父に書いた小ドイツ軍人の手紙をよんだことがあります。(店員か商人です)あゝ、彼は何を書いてゐるでせうか。彼らは如何に病氣になつてゐるでせう、如何に飢ゑてゐることとせう。然し、それを物語るのは餘りに長くなりませう。就中、いろいろの觀察の中に、斯う譯ふことがあります。元は、群衆の中で、屢々、*Wachtam Rhein* (譯者曰、ドイツの國歌ライル河畔の守り。)や一所に歌つたものでしたが、今はもう全くありません。最も熱烈な最も誇つてゐるものは、學生の先生や、醫者や、學生ですが、人民は多くありません。全くないと言つてもいゝのです、今は、先生は傲慢になつてゐます。圖書館で私は毎晩彼らに會ひました。雪の様に真白い非常に勢力ある一學者は、こぞつて斯う叫んでゐました、*Paris muss bombardiert sein!* (譯者曰、パリイは砲撃されてゐるに相違ないの意のドイツ語。)これが、彼らの學問の結果なのです。彼らが學問にたづさはらないとしたら、彼らは馬鹿なことを言ふでせう。彼らは馬鹿なことを言ふでせう。

う。彼らが學者であつたにもせよ、彼らは大馬鹿者です。もう一つ觀察があります。こちらにゐる凡ての人々は文字が解つてゐますが、信すべからざる程、修養を缺き、愚鈍で、馬鹿で、最も卑しい興味をもつてゐます。それでは、さようなら、これ丈で澤山です。私はあなたを接吻します、前もつて感謝します。後生ですから、我を忘れないで下さい、至急、私に御報らせ下さい。あなたの

エフ・ドストイェフスキイ

契約書の寫しをしまつて下さい。それは私にとつては最も重大な書類ですから。

追伸、——あなたがステロフスキイから金をお受けとりになつたら、銀行から送らないで、只、書き留にして、ロシアの紙幣で、こちらに送つて下さい。即ち、あなたの御受けとりになつたまゝです。こちらで、十分、兩替することが出来ます。

追伸、——ステロフスキイが、支拂はないで、例へば、「白痴」の發行のことを申し出したにしても、とり合はないで下さい、彼の言ふことを耳に入れないで下さい、然し、猶豫なしに、支拂ひを要求して下さい。

同じ人に

一八七一年一月十八日(書日) ドレスデンにて。

非常に深切なアボロン・ニコライエギツチ、あなたの一月十二日の御手紙の御返事として、私の方で數行あなたに申し上げます。私は、ボオルが、何故、外務省の内務局で、消息を見出せないのか解りません。私は直ちに今、大使館の局に通知してやりました。人々は今月三日にそれを送つたのです。ボオルが尙解らないのなら、あなたに直ぐに解る新聞をあなたに御送りします。私にあなたが直ぐに御教へ下つたことや、此事件に取りかゝることをしてくれる〇の形の厚眉の紳士をご覧下つたことも感謝致します。

何故雑誌は出ないのでせうか。それが遅れるのは恐しいことです。ルスキイ・ギエストニクさへも、ドレスデンに来てゐません。元は一月號はいつも早く出たものです。私の小説をおよみ下つたとしたら後生ですから、せめてあなたの批評を二行でも書いて送つて下さい。ルスキイ・ギエストニクで、それを満足に思つてゐると言ふのをききました。然し、私は、第一篇には非常に不満なのです。

あなたは、ルスキイ・ギエストニクのレスコフの小説を御讀みになりましたか。それが月の世界で起つたかのやうな架空的なものが澤山書いてあります、神の知つてゐられるやうなことが澤山です。虚無主義者は、詐偽者となる程、傷けられてゐます。——然し、反對に、そこにいくらかのタイプがあります。ヴンスコツクのやうなものです。ゴオゴルでも、是以上の模型的な忠實なものはありません。何故と言つて、此ヴンスコツクは、私の見聞する所では、私の觸れたことのあるやうなものです。何と言ふ驚くべき人物でせう。一八六〇年の虚無主義者が絶えたとすれば、此人物は永久に我々の記憶に生き

るでせう。それは天才的です。彼は如によく我國の僧侶を描くことを知つてゐるでせう。例へば、父エヴンジエエルです。それは彼に見出す第二の僧侶です。我文壇で、此ステブンスキイの運命と何と言ふ驚くべきものでせう。何故と言つて、ステブンスキイのやうな才能は、出来る丈眞面目に研究する價値のあるものです。

さようなら。あなたに心から感謝します。金のことを言へば、我は非常に、信すべからざる程要求を感じてゐます。妻はいつも苦しんでゐます。子供は丈夫です。あなたの名付け子（譯者曰、自分の子にして、マイコフに洗禮の時名付親となつて貰ひたるなり。）は、何と奇麗な子でせう、何と言ふ食欲をもつてゐることとせう、氣紛れではなく、何と言ふいつも快活な氣をしてゐることとせう。私は未だ曾てこんな子供を見たことがありません。

あなたの

イユオドル・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八七一年一月廿六日（二月五日）ドレスデンにて。

我が親愛なる友よ、昨日、あなたの御手紙をうけとりました、そして、大急ぎで、私の見方を御報らせ致します。第一、第八條のあなたの論駁は少しも解りません。あなたの方では、第八條には、支拂ひ

期限が「示されてゐない」とおきになり、そして、狡計やその結果を豫想してゐらつしやるのですか。然し、一切のことが非常に正確明瞭に記されてゐるのに、如何なる期限を要するのですか。こゝに第八條の本文があります、よくそれを見研はめて下さい。

「此約束期限の間、私ドストイエフスキイが一八六六年と一八六七年に書いた所の新著作物を、彼ステロフスキイが此契約に従つて企てたる我が著作の刊行中に含ませんと欲するならば、私の著作の現在の全集を此契約によつてステロフスキイに賣りたる時、私ドストイエフスキイが一帖受けとりたると同様に、一帖毎に支拂ひ、それ以外にステロフスキイはそれを刊行する権利を有しないものである。然し條件……云々」(御注意。——その餘のことは、私の事に關係ありません。)

斯うすれば、今、あなたを悩ましてゐるものは何でせうか。その期限とは何ですか。「勘定して各點支拂ふ以外に、ステロフスキイはそれを刊行する権利をもたない……」と書いてあります。そして、今、ステロフスキイは、既に全部刊行したので、それが印刷せられ發賣せられてゐるのであるから、第八條に示された勘定によつて支拂はねばならぬのです。あなたは、何日から支拂はねばならぬものだと見做すべきかと御尋ねになります。然し、いゝですか、發賣に附せられた廣告の日からです。廣告はゴロス新聞で、十一月の終りと、十二月の始めにされました。(恐らく他の新聞でも同様でせう。)斯うして、第八條の最も正確、最も明瞭、最も當然なる意味によつて、廣告の日が期限です。それで、あなたを悩ましてゐるのは刊行すると言ふ言葉ですか。あなたは、印刷と發賣と言ふ言葉の間に、差異をお

かれるやうに思はれます。然し、發賣しないで、只印刷するのみとすると言ふのは、私にはそんなことは、てんで解りません。發賣しないで、印刷すると言ふものがあるでせうか。刊行とは印刷と發賣を意味します。そして、私は此二つの行動をした、即ち廣告した日から、印刷して發賣したのだから、私は第八條によつて、罪があるのです。何故と言つて、そこには明白に斯う言つてゐります、「私は刊行する権利をもつてゐる、それは、勘定によつて各帖支拂はなければ、さうではない、云々」と。それがあなたの仰る期限です。私に當然すべき支拂を請求する爲、廣告した翌日すぐに私の所に行かなかつたら、——私が完全に自由にさすことが出来ること(私がペテルスブルグに居たとして)には關係ありません。私は數年間、約束手形の支拂ひを待つてゐることを承諾してもいゝのです。それでも、それは金價値を保有してゐます。あなたを悩ましてゐるのは何でせう。

あなたはまだ、約束手形を手にしてゐなければならぬ、何か期限、第八條の缺陷(所謂)を全ふする所のものが、そのなかに示されてゐるだらうから、と仰る。私の考では、その反對です。眞實の期限は、發賣廣告の日です。然し、あなたが何か他の期限を御認めになるなら、契約に餘りに明白すぎる程示されてゐる元の期限(廣告の日)に對してのあなたの権利をおすてになることになりませう。それでは、あなたは、契約第八條を侵犯するやう故意に(又、二方面から)同意なされたことになりませう。

最後に、あなたが約束手形(期限が示されてゐる)を受けとることを承知なさるならば、契約第八條の期限は、何故あなたに必要ななるでせう。私が金の一部分をくれ、他の部分には約束手形を渡し、あ

あなたが受けとることを承知し、お受けとりになつたとすれば、私の考では、私は完全に支持つたことになり、私に對しては還して、事件を終了し、契約は實行され、第八條及十四條は、反古紙となつても差支へない譯です。何故と言つて、私は約束手形を支拂はない譯はないのですから。何故と言ふに、私は商人で、同時に、失敗した宣告されるからです。然し、私が約束手形を渡さないならば、此約束手形しか私は追究する必要があるありません。それでも、約束の一件は終ることになりまゝ。要するに、それは全く違つた事件となるでせう。

第八條に何か落ちた所があるとするれば、ステロフスキイは屹度それを利用し、支拂ひ期限として、私のモスコウに歸つた時を自分で指示するやうなことはないと言ふことを御信じ下さい。

あなたは、彼の條件を承知するやうに、即ち、金の一部と、短い期限の手形をうけとるやうにと相談をされた。さうです、解つてゐます、それを承知しないことは不可能のことです。友よ、私が一つの觀測を申し上げても怒らないで下さい。然し、ズエトギン氏が、餘りに柔しく、餘りに臆病に、此事件をやつてゐられるやうに思はれます。さあ、彼の所へ三度も行つて、不在だと言はせるやうになさることなんぞ、どうして出来るのでせう。それから、彼自身で、その條件を申し出し、即ち、モスコウから彼の歸るまで、金の半分を與へ、それから手形をやるなど、如何してそんなことをさせるのでせう、即ち、恰も、私が彼の條件を出す権利があるかのやうに言はせるなんて、私の考では、我々が自分達の權利を自覺してゐると言ふことを彼が直ちに悟る爲に、法律的に要求して、直ちに私をして恐れしめなけ

ればなりません。そして、彼を恐れされるのみならず、正當なることとして、法律的に要求するのです。それは全然訴訟ではないでせう、その場合、意味の正確明瞭に契約があるのです。事件の進行は、勿論數日かゝりませうが、支拂は完全なものとなります。それに、第一、私は、その手障から逃れる爲の何らの理由も何らの可能性もないのですから、私は少しも自ら此事を争ひ、訴訟を始めやうとはしないでせう。それは餘りに明白すぎることです。第二、私が法律によつて言はねばならぬやうになれば、契約第八條を侵害することを意味します、何故と言つて、私をして言はしめるには法律に訴へなければならず、私は自ら一人で言はうとはしないからです。それで、信じて下さい、私は第十三條を恐れるでせう、そして、ズエトギン氏が法律に訴へると言ふ意志を眞面目にもつてゐることを只見たならば、信じて下さい。私は直ちに家に這入つて、すぐに全部を言ふことを承するでせう。

けれども、それは私に辛いことですが、私はあなたの仰ることに同意します。然し、我が親愛なるアボロン・ニコライエギツチ、私はあなたに低身して御拂ひすることがあります。

第一、それを早々纏めることは出来ないものでせうか。誓つて申し上げますが、それはつまらない焦心ではありません。私は凡てを費し、一錢も持つてゐないのです。そして、長々待つてゐなければならぬのです。私が頼むと直ぐ、ルスキイ・ギエストニクで必金してくれると思つたとしても、歸國の爲、一時に二千ルウブルくれるやうルスキイ・ギエストニクに頼むことは、非常に都合の悪いことになりませう、(それに、それは不可能です。それで、私はまだ歸ることは出来ません。私は春までぐづぐづす

爲に、ステロフスキイの金をあてにしてゐます。

私は、あなたに、私が一月の終りに歸ると言つたのです。然し、私のやり方から判断すると、私の歸宅後、ズエトギン氏に、私が居らないと言はせるやうなことをやるでせう、そして、私がまだ歸らないと人に言はせるでせう。そして、それが屹度何日も續くのでせう。私の恐れてゐるのは、これです。斯様に、どうかしてそんなことをさせないやうに出来ないのでせうか。それが私の第一の御願ひです。

第二。私がせめて、金を半分私でも拂ふやう、取りはからうことが出来ますまいか。どんな手形であつたにしても、期限が短かいにしろ、私は何にも受けとらないやうな思ひがします。その半分を得ることが不可能ならば、せめて三分の一でもいゝのです。後生です。

御注意——けれども、私は一切のことを、あなたの自分の判断と決心とに任せます。我が親愛の友よ御願ひですから、何か細々したことを、どんなに少しのことでも、手紙で尋ねないで下さい。何故と言つて、凡てこんなことは、時間がかかるのみです。私はあなたを恨むわけではありません、あなたに對して不平を言ふのではありません、それに、そんなことは不可能のことです、何故と言つて、あなたが私によかれと思つて下さることを私は知つてゐるのですから。それに、あなたは、これ程面倒なことを引きうけて下さる程、善良な人なのですから。

第三。最後に、私の第三の御願ひです、(私も重大なもの。)あなたが金を受取られるや否や、同時に、約束された手形を一所にひとまとめに、手に入れるやうにして下さい。斯うして、私に受けとりを書い

て下さい。金でなく支つて貰つて、その残額は、手形にして下さい。然し、絶対に、一所にです。そうすれば、事件は全く終るでせう。何故と言つて、繰り返して申しますが、私は凡てを支拂ふでせうから。

第四、ステロフスキイの手形は、國際商業銀行で(國立銀行ではありません)、八分か、一割、割引して掛つて貰へるかも知れないと、ボオルが去年私に書いてよこしたことがあります。御願ひです、ボオルをよんで、私から正確に知るやう努めて下さい。割引して貰へるなら、その手形を割引にして換へて下さい。そして、私に金を送つて下さい。何故と言つて、神も御存知です、金を受けとらないと、どれ丈のものを失はうとしてゐるでせう。私は非常にそれが必要です。

それから、數によつてする勘定に就いては、私は全くあなたに信頼してゐます。屹度、あなたが多く得られれば得られる程、益々それはよくなるでせう。(御注意、——でも、どの位あるでせうか。分けて見て、二十七帖か、二十八帖でせうか。)

これが、此言ふべき事件に關する一切のことであると私は信じます。私はあなたに何にも書きません私が如何に荷の勝ちすぎる仕事の爲疲れてゐるか、あなたが御報知になつたら！我國の社會や、ドイツの事件に就いて、あなたが手紙の中で仰つたことを、私はよんで悲しみました。それに就いて何も考ふべきかは、あなたがよく御承知です。其以上の虚偽や、其以上の狡計を想像することが出来ません。彼らは、力づくでナポレオンを押し立てやうとしてゐます、彼とその血統の中に、永久の奴隷を見出さ、を望んでゐます、却つて、彼らは、彼の爲、王統、即ち、彼の要求する一切のことを保證することに

なりませう、それは明かです。一般會議が催されたならば、彼らは、限らない要求で、會議をして同意せしめないやうに強ひるのだとあなたは認認のになります。その時、彼らは、ナポレオンと宣言するでせう。

然し、下の福音書の文句を思ひ出して下さい、「劍を抜いたものは、劍で死ぬだらう。」否、劍で身を立てたものは、長續きのするものではありません。そして、人々はその後に、斯う叫ぶでせう、「若いドイツよ、」と。反對に、——それは力で生き残つてゐる國民です。何故と言つて、かゝる精神の後、かゝる科學の後、劍や血や暴力の觀念に信賴し、兵卒のやうな卑しさをもつて、是ら一切のものを嘲弄するなんて。否、それは死んだ未來のない國民です。然し、それが、始めて陶醉したの後、生きてゐたとしても、自己の中に、善に對して反撥する力を見出すでせう、そして、劍はおのづから手から落ちるでせう。それから、もつとあります、ドイツの物質的の缺乏は、非常に大きいもので、四ヶ月の抵抗をやつと支へる位でせう。

お、彼らがフランスから歸つてから、始めの二年間は、我々におべつかを言ふでせう。それに、彼らの卑劣を以てしては、その前に、裏切るかも知れません。神がツアルとロシアに生命を與へられんことを。然し、未來は、歐洲に對して、屹度困難なものとなるでせう。さようなら、我が親愛の友よ、私の抗議に怒らないで下さい。

全くあなたのものなる

追伸——ステロフスキイが、支拂ふ前に、新しき刊行、即ち、私の最近の著作を買ふことなど申し出して、後生とり合はないで下さい。そして、金を要求して下さい。要するに、彼をして、事件をのびくんにさせて下さい。

フイオドル・トストイェフスキイ

ストラホフに

一八七一年二月十日(廿二日) ドレスデンにて。

非常に親切な尊敬すべきニコラス・ニコライエギツチ、あなたの人と物とを、善く微妙に殆んど常に正確に知るところに依賴して、私を不愉快な困惑に、落させて下さらない丈に、善良であられんことを御願ひします。去年のザリアの十月號と十一月號に、(多分十二月號かも知れませんが、許して下さい)雜誌が手にないので、コンスタンチノフ(譯者曰、十一月十二月號の「讀者と民衆」を言ふ。)の二つの論文が掲げられてありました。その論文の一つで、彼の考を支持せんが爲、彼は、「ヴレミヤ誌やあの方針のある他の雜誌は、少しか成功しなかつたと主張してゐます。ヴレミヤは、第一年目に、二千五百人以上の購讀者がありました。三年目の發賣禁止の年には、四千五百人以上の購讀者がありました。その發行の帳面は、尙手をふれずにあります。證人は無事息災に生きてゐます。バズノフ自身でもそれを證明

することが出来ます。コンスタンチノフ氏のやうに何の爲に攻撃し、事實を曲げんとするのでせうか。彼は事實を言つても困ることはないのです。私にそうして貰はねばなりません。それが恰も確かで、あるやうに、彼は自分の知らないことを断言してゐます。非常に尊敬するニコライ・ニコライエギツチザリアの中で、斯かるもの出會すことは、私に切ないことであることをあなたに自白します。二年前、ピセンムスキイが、ザリアに出した小説の中で、私に就いて、文學者として、ある輕蔑的な評をした時私はピセンムスキイの性格と焦心とを笑ふ外はしませんでした。私の小説を發表せんことを望む雜誌、(それは私と公衆に廣告したものです。)私に就いて何か批評を發表せんとする前に、私の他の作家から受ける恥辱に敵意を示した雜誌には、私は何ら主張をしなかつたのです。然し、今は、私は辱しめられてゐるのです。グレミヤは、私の兄の仕事であると共に、全く私の仕事でもあつたのです。我々は二人共同に發行者でありました。その雜誌の成功は未曾有のものでした。二つの雜誌のみが只、かゝる迅速な成功を得ました、それは、元の「讀書文庫」と元の「ソヴレメンニク」です。こんなことを誇るのは虚榮や卑怯から言ふのではないと私は思つてゐます。曲けられた事實は、文壇の歴史を害します。ザリアの證言には、(その中に、昔のグレミヤの寄稿者も澤山居りますが)グレミヤは成功しなかつたと言つてゐます。かゝる事實は、ロシアの新聞雜誌事業の歴史としては、最も惡いものであることに一致してゐます。然し、それは、何かの使ひ道となるかも知れません。何故と言つて、此事實は、コンスタンチノフ氏に、ある批評を確める爲めに、役立つたのではありませんか。私にとつては、白狀しますが、

此事實は、個人的の重大さを持つてゐます。所謂、私が兄の者の商賣を止めさせて、雜誌を刊行することをすゝめ、兄を破産せしめた、今迄、或る人から私は批難をうけてゐると言ふことがあります。此批難は、苦みをもつて發せられてゐます。それを言ひふらしてゐる人々は、グレミヤの發行所の帳面を調らべやうとはしないのです。然し、雜誌の中の一行書いてあつたことが、(一行は、するぶんちつほけなことですが、それをよむのは難作もないことです。)彼らの心の中で私に向けていた批難に、一層の力を與へました。けれども、此三年の間、兄は、雜誌から少々とも、六萬五千ルウブルの純利益を得てゐたのです。そして、彼が一錢も残さず、負債を残して死んだとしても、それは少しも雜誌に關係はありません。

同じ論文の中で、此コンスタンチノフ氏は、「致命的問題」と言ふ論文が才智をもつて書かれてゐる機敏に發表せられなかつたと言つてゐます。けれども、機敏を缺いてゐるは哀れむべき編輯者は、全ロシアをして、その雜誌を読むの餘儀なくしたものです。(四千五百の購讀者、——その時は、少くともそれは全ロシアであるのです。)のみならず、非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、此論文の發表の一切の事情は、誰よりもよく、あなたに知られてゐます。今迄、私の意見は變りません。論文は機敏に發表せられなかつたかも知れませんが、執導も、全部それを讀ます後でよみ終つた人々によつて、機敏にはなされませんでした。明かに、コンスタンチノフ氏は、事件の凡ての事情があなたに知られてゐると言ふこと、そして、あなたかザリアの重なる寄稿者の一人であることも知つてゐるのです。私が

論文を才智があると言つたが、私は苦しめる防禦のない人々に、恥辱を投じたのです。(何故と言つて、私が、公衆と、即ち、新聞で、自己辯護をして、かゝる論文が機敏を缺いて發表せられたものでないと言ふことを、如何して證明することが出来ませう。)結は完全に返事をうけることは不可能であることを知つてゐたのです。手際のいゝ男ですね。

ザリアで斯様な敵對行動を見つけて來た騎士は、一體誰ですか。私の敵對は實に非常なものです。ワテロオで、ナボレオンは、ブルウヘル(その場にはせなかつたものでしたが)の爲に負かされました。そして、ザリアは、凡てこれらのことを、説明もせず、辯解もしないで公けにしました。

ニコラス・ニコライエギツチ、私の不機嫌なことを許して下さい。是ら凡てのことは、餘りに個人的です。私はそう言ふことに同意します。それを注意を引くことなく見越さしめるやうにしなければなりません。それは、くだらぬことです。然し、苦みは、私の心に根を下ろし、廣がらんとします。私は、これが虚榮であるか、臆病であるか如何かは知りません。私が兄を引き入れた私の活動(雜誌業者としての)は、機敏を缺いた不成功のつまらぬことであるに過ぎないと言ふ記事をよむと、私には非常の苦痛を與へます。として、それ丈です。

久しい前、私がよんだ時に、このことに就いて、あなたに書いてやらうと思つたのですが、私は非常に忙しかつたのです。今、私は著作にとりかゝつてゐます。私は讀む暇を殆ど持つてゐませんが、ザリアのあなたのロシア文學に就いての論文をよむ機會のないことを非常に残念に思つて居ります。雜誌

社は、今年、私を購讀者の數から削除し、雜誌を送つて來ませんでした。(私が只で雜誌を受けとつてゐるのではないことを、勘定が私の著作で雜誌社ときめられるまで、信用借りで取つてゐることをあなたは御存知です。私はそれでも、ザリアの購讀者なのです。)私は如何なる理由で私を削除したのか、少しも解りません。私は下の二つの説明しか見出すことが出来ません。私が雜誌社から澤山借りてゐるから、私の支拂能力に輕蔑をしてゐること、私が文章を書く約束を守ることが出来なかつたから、雜誌社が何か敵意を抱いてゐること。私は眞實に、此第二の理由を排するものなること自白します。——それは餘りに實際です。——即ち、私が排してゐるのは、雜誌社の不愉快な感情ではありません。私にそれを悟るやうにさせかゝる方法です。一八六九年の終りと、一八七〇年の始めのルスキイ・ギエストニクの編輯局は、私に對して、憎惡の情を抱いてゐました。何故と言ふに、私が約束したにも係らず、一八七〇年には彼らに何物も送らず、ザリアにやつたからです。それにも係らず、私が尙二千ルウブル位をルスキイ・ギエストニクに借りてゐたにも係らず、彼らは私に雜誌を送つてよこさないなんてことはなく、依然送るのを續けてゐました。

彼らは、かゝる點で私を怒つてゐるのですか。けれども、新聞の廣告では、私は寄稿者の數に這入つてゐます。それは、『お前は負債をしてゐる、逃れることは出来ない、どんな風に取り扱はうとも、それでも小説をよこすだらう、』と言ふことを意味します。こんなことは有り得べきことでせうか。その外にどう説明することが出来ませう。

私はあなたのみならず、ニコラス・ニコライエキツチ。何故と言つて、あなたの仲裁によつて、私が申込みをする現金を有しないで、ザリア誌を取やうにと、單純に欲するのだと、あなたは御信じにならない丈の十分の尊敬を恐らく私に抱いて居られるのですから。ザリアの方には、私は斯様な事情で頼むことを敢てしません。従つて、私は夏までザリアをとらずに居りませう。一切のことが、私には、他の色々のことより一層高價になつて歸つて來ます。あゝ、他の文學者なら、發行者にどんなことをするでせう。然もわざ／＼です。要求が彼らに切迫してゐるからではないのです。凡てのものを片づけるのです。

もう一度此手紙を御許し下さい。泣き言を言つたり、お喋りをしたり、何と言ふ醜さでせう。私があるに送るのは、手紙ではなく、此醜さです。怒つては下さるな。それよりも一層、始め私を咎つて下さい。それから、「然し、私の言ふのは少し尤だ」と仰つて下さい。

あなたは御健康ですか。いつでもいゝから、何か書き送つて下さい。こんなことで、あなたが私をお怒りになることは有り得べきことでせうか。

あなたに全く眞實なる

エフ・ド・ストイエフスキ

マイコフに

一八七一年二月廿五日(三月九日) ドレスデンにて。

非常に尊敬するアポロン、ニコライエキツチ、

私は自ら抑へることが出来ません、そして、もう一度、あなたを煩はさうとします。不確かの中に居ることは、餘りに苦しいことです。それに、それは私を害ひます。——私はいつても待つて居ります、私は何を企つべきか知りません。私にはいくらか望みがあるか、御報らせ下さるやうに、非常にあなたに御願ひしました。恐らく、ステルプスキは、まだペテルスブルグに歸らないだらうと言ふ考が、私に起りました。あの事が駄目だと云ふ決定的言葉を、あなたから受けとらないので、あなたが尙望みをもつてゐられることゝ想像して居ります。然し、期待は時として非常に苦しいもので、直接に利害關係を害します。私はモスコウに手紙を書く決心をせねばなりません。然し、それは、春に、サン・ペテルスブルグへ歸ると言ふ私の計畫を全くこわして了ふかも知れませんから、(何故と言つて、今、即ち、不利益な時に、ルスキイ・ギエストコフから金をとると、私には私にある額を請求するポシビリテイをしらすことですから。)尙此手紙に對するあなたの御返事を待ち、只、ルスキイ・ギエストニフに書くことを努めませう。それで、善良なアポロン・ニコライエキツチ、後生ですから、私に答へて下さい。

それから、あなたは私に怒つては居られないのですが。それはさうかも知れません。——何故と言つて、私はあなたを餘りに困らせ過ぎました。最近の手紙では、私の意見をお氣にかけられないやう、只、あなたにいゝと思はれるやう、はからつて下さいと御願ひしました。私はさうあなたに繰り返し申上げ

ます。あの卑劣な奴が、少し金を返したら、あなたがどんなことをして此事件をまとめて下さつても、私は非常に満足するのです。私と係り合ふことは、どんなことか、私は自分でよく承知してゐるのです。私は餘り健康ではありません。そして、殆ど書くことが出来ません。私は凡ての雑誌の初號を見ました。(それは殆ど凡てです。)——それは大したものではありません。それでも、我々の方が、もつといふのです。然し、是らの中には、常に古るい歌があります、聯合や、労働者や、それからラサアルや、いろくの批評の中で、歪められたロシアの時事問題です。有名な裁判官に就いては！ 私はドストチエフの事件をよんでゐます。人々は私を放免しました。何と言ふ山鳥でせう。彼らは、命令でもうけたかのやうに、さうしたのです。否、世の中で、一番困難なことは、自己自身となることです。

けれども、歐洲では、平和を結んで、物事が一層興味あるやうになり行くかも知れません。人々是我々におべつかを言ふでせう、少くとも、三年の間は、我々を賞めるでせう。フランスでは、都會と田舎の人との間に、内亂が起らんとしてゐるやうに思はれます。ピスマルクは、そのことを疑つてゐます。そして、彼自身は、秩序が恢復した時は、共和政になること望んでゐるのです。フランスは自滅するでせう。(譯者曰、一八七〇——七一年、普通戦争にナポレオン三世のプロシヤに敗戦したる事件を云ふなり。)彼が、しつかりした王を撰んで、自ら救はうとするのでなければです。フランス人の頭は、政治的意見が變化したと言ふことは、(それは、ダニレフスキが無邪氣に望んだことですが)——そんなことは、決して、するぶん以前から、ありますまい。それはロシアに對して憎惡を捨てると言ふことではあ

りません。そして、彼らは自ら、自滅せんとしてゐるのです。斯様なことを嘆く必要はありません。

私の願ひをきいて、私の知ることの出来るやう御返事下さい。殊に、大急ぎで御返事下さい。私はあなたに自分の境遇を書きません、それは苦痛ではありません。

眞實にあなたの

フィオドル・ドストイエフスキ

追伸——ビエセダと言ふのは何ですか。私は寄稿するやうにとの申込みをうけました。いゝですか。私はそれは非常に喜ぶ所だと答へました。雑誌を私に送ると報らせてよこしました。然し、私はまだ受けとりません。それは、非常に知りたいものです。然し、あなたは何と御考へになりますか。

時に、後生ですから、郵便局留置とお書きになるのを御忘れなく。何故と言つて、さうでないといふはあらゆる手紙をうけとることは出来ません。ザリアの一月號は、町の中を、五日間旅をしてゐました。そして、他の人の所に行つてゐました。何故と言つて、郵便局留置とかくのを忘れたものでしたから。

同じ人に

一八七一年三月二日(十四日) ドレスデンにて。

非常に親切な尊敬する友、アポロン・ニコライエギツチ、中にも、果てしのない我々の事件を御話し

ませう。

私はそれに始末をつけること、即ち、裁判に訴へることに決心しました。人は最も困難な訴訟に勝ちました、私の権利は、契約に従つて、論ずる餘地がないのです。要するに、それこそ私の欲する所で、どうしても決心したことなんです。かゝる追究は、あなたを御監はしするとの出来ないものですから、のみならず、あなたは辯護士ではないのですから、私はあなたに切に御願ひします、此事件を（あなたは委任状によつて、権利があるのですから）誰か辯護士の手へ、（スパンギツチか、マルカンドールスキかその他に）渡して下さい。そして、どれ程費用がかゝつても構ひません、辯護士に、直ちに、正式に、ステロフスキイに對して、金を要求する追究を始めたいのです。（そして、帖数の計算で、額を示めさなければなりません。誤りがあるとしても、裁判が、それを決めてくれるでせう。）のみならず、辯護士は、そのなすべきことを知つて居りませう。殊に、辯護士に、契約の寫しを報らせ、特に、第八條と第十三條を調らべるやうに頼んで下さい。殊に十三條をです、何故と言つて、損害の利子を頼みたいと思つてゐるからです。それこそ、私の辯護士に報らせて下さることを御願ひするものです。

殊に、ステロフスキイが支拂ふことを欲しないことを證明しなければなりません。さうでない、第十三條の爲に、彼を追究してゆくことが出来ません。然し、辯護士は、屹度、精算して（手形でなく）支拂ひをするやう要求する爲に、ステロフスキイに宛てる正式の請求書を始めに出させよう。（それは、警察の力をかりて爲されると、私は信じます。私は知りません、辯護士が知つてゐます。）そして、例へば、

ステロフスキイが、三日の猶豫を乞うて、支拂ひを拒絶したとしても、第十三條の爲に、追究を始め、即ち、支拂ひの上に、損害利子を要求しなければなりません。然し、彼が拂ふなら、第十三條なんぞ悪魔にさらつて行つて貰ふのです。それで、事件は終りませう。

斯うして、私はあなたに次ぎの御願ひを致します、第一、直ちに委任状を辯護士に御渡しになること然し、その人が善良な人でなければなりません。そして、どれ程かゝつてもいゝのです。

第二、少しの猶豫もなく私の利益を害すると言ふやうなことは少しも恐れずに、そうして下さい。こと。（御注意——何故と言つて、法律によれば、辯護士は、事件終了後に謝禮を拂ふのです、そうではないのですか。そうすれば、何にもあなたを躊躇させることは出来ません。）然し、後生ですから、あなたが此手紙をうけとられたら、少しの猶豫もなく、そうなすつて下さい。何物も恐れないうで下さい。それは自分の望みです、そして、私が金を損したとしても、それを私は欲してゐるのです。それですから、後生です、それを辯護士に任せて下さい。もし、あなたが尙、事件の始めからの私の手紙を御持ちでしたら、事件を辯護士に任せて、彼が私の考を知る爲に、それを彼によんで聞かせるか、此らの手紙の抜萃をよむやうに與へて下さい。

最後に、第三、辯護士に申込む前に、もう一度、機會を試みていゝのです。それで、此手紙をうけとつて、下のやうになさなければなりません。親愛の友よ、ステロフスキイに、非常に簡単な手紙を書いて、（躊躇なく、私の利益を害するなんぞと恐れずに、）私が法律上の手續きをとらんと欲してゐること

あなたが最後に、ステロフスキイに支拂ひをするやう報告することを、言つて下さい。同時に、お手紙の中に、時日を示してやつて下さい、(形式的な冷靜な斷然たる調子をもつて御願ひします) 例へば、後日か、あなたに全額を支拂ひ持参して来る時日をです。また、あなたが此時日以上は待つことが出来ないこと、あなたが欲せられないこと、私が、私がさうするのを要求するものなることを付け加へて下さい。

二つの場合が起るかも知れません。或は、ステロフスキイがあなたの所に来ないかも知れません。その時は、直ぐに辯護士を求めて、追究を續行しなければなりません。或はまた、ステロフスキイが支拂ひに来るかです。その時は、私から全額を要求しなければなりません。さうでなければ、少くとも半額です。約束手形に就いては、(半額の爲に、私が出すと申し出したならば、) どんなことがあつても、三ヶ月内で、それ以上ではいけません。

もし、ステロフスキイが金をもつて来ず、ぐづぐづしやうとして、何か申込みをしても、その場合、何にもきいてはいけません。そして、私が期限を要求したとしても、(例へば、十五日の中に金を得て拂ふと言つても) 少しも言ふことをきいてはいけません。あなたが私に許すことの出来る最大猶豫は、その翌日で、即ち尙一日丈です。それ以上は、一時間もいけません。後生ですから、(それは追究の爲最も必要です、) この事件に就いて、どんな話しても、議論でも、私と試みないで下さい。それから、追究が始まり、ステロフスキイが追究の間に、裁判所へ行く前に、金をもつて来るとすれば、

ば、それは明かなことです、何故と言つて、私は追究を繼續せしめることを欲しないことを信じて下さい、そうすれば、その時は、辯護士が、自分で決すべきことを知つてゐませう。

それで、殊に、ぐづぐづしてはいけません。私があなたに御願ひするやうに、文字通り、して下さい。何故と言つて、金は私のものです、斯うして貰はうと欲するのは、唯自身です、そして、私が私のやり方一つで、それをなくしたとしても、あなたにはどうでもいゝのです。そうして貰ひたいと私が思つてゐるのです。それで、私が御願ひするやうになすつて下さい。(少しの躊躇もなく、前以ての通知もなくステロフスキイを訪問したり、人を送つたり、報らせることなく、) 後生ですから、私の御願ひしたことを、文字通りにして下さい。一日も駄目になすつてはいけません。何故と言つて、さうしないと、あなたは、斯く言ふ寛大なことをして、ステロフスキイをして、金をとれることが馬鹿々々しく思はせる程増長せしめて了はれます。

後生ですから、何らの報らせをも私に聞かないで下さい。そして、事件をぐづぐづさせるやうな何らの許可をも要求しないで下さい。私が今御願ひしたやうに、文字通りにして下さい。それ丈です。

(御注意、——あなたの手紙の中で、二日以上の猶豫を私に許さないで下さい、どんなことがあつてもどんなことがあつても!) そして、直ちに辯護士の所へ赴いて下さい。

辯護士に就いては、繰り返へして申しますが、いゝ人に頼んで下さい、(恐い顔をした紳士ではいけません、本當の辯護士です) 事件がどんなに些細であつたにしろ、有名な辯護士は、恐らく其を擔當して

くれるでせう。——然し、文學に關すること、それは彼に廣告となります。それで拒みはしないでせう。

殊に文字通り、あなたに御願ひしますが、私の利益などを思ひ惱んだり、問題にしたり、恐れたりすることなくです。後生です、さうして下さい。

私の小説の始めに、あなたが御好意をもつて下さつたことを、私は喜びます。あゝ、私は恐れてゐました、そして、尙、恐れてゐます。あなたがそれを御よみになつた時、ルスキイ、ギエストニクの二月號で、恐らく、一篇の半分も御よみになるでせう。あなたはそれを何と仰るでせうか。私は怖ろしい。怖ろしい。その餘に就いては、私は只絶望してゐるのです。私はうまく行くでせうか。さて、それは四篇、四十帖文です。ステパン、トロフイモギツチ（譯者曰、彼の作「悪靈」の始めに出てくる人物なり。）は、第二流の人物で、小説の中では、彼が問題とはなつてゐません。然し、彼の歴史は、小説のある冒險（重なる）と密接な關係を有して居ります。それですから、私は、彼をば、全著作の土臺石としました。然し、ステパン、トロフイモギツチにとつていふものは、第四篇に出て来るでせう。そこで、彼の運命は、非常に獨創的な終りを告げませう。私は他のことに御返事はしません、此所文、前以て御返事出来るのです。然し、繰り返して申し上げますが、私は驚いた鼠のやうに怖れてゐます。觀念は私を誘惑し、私の非常に氣に入つてゐるのです、然し、私は成功するでせうか。

第一篇の爲に、私を祝してくれる手紙を、もういろいろの所から澤山受けとつてゐることを、あなた

は想像出来ますか。それは、私を非常に鼓舞しました。然し、あなたに媚びるのではなく、私は只斯う申し上げます、あなたの批評は、私にとつて最大の價値を有するものであると。第一、あなたは私に阿叟を言はれません、そして、第二に、『それは、ツルゲネエフの主人公の老年になつたものであると言つて、あなたは批評の中に、天才的表現をあらはされました。それは、天才的です。書き乍ら、私はかゝる種類の或物を感じてゐたのです。恰も公式のやうに、あなたは三語で、凡てを定義されました。さあ私は、此御言葉を感謝します。あなたは、私の全作物を輝かしいものとなすつた。

私は非常に苦しんで仕事をしてゐます。私は病氣になつたやうに思ひます、頻繁な發作の時代は始まらうとしてゐます。

私は間に合ふやう書けなくなりはいないか、遅れはしまいかと恐れてゐます。私は急いで、これを悪くして了はうとは思ひません。實際、そのプランはうまく思ひついたもので、又、研究されたもので、餘り急ぐと、悪くして了ふかも知れません。

私は絶対に春歸ることに決心しました。我々は何を話すことが出来ませう。私はビエセダを受け取りました。それは、後にどうなるでせう。美的の部分はありませんが、あなたの仰ることは御尤です。ザリアは、他の雜誌より、どこが悪るいでせうか。私の考では、他よりいふと思ひます。然し、編輯局の不秩序と處世術の缺乏は、（あなたも御存知です）その減乏となりませう。ストラホフに就いては、あなたの意見と一致することは出来ませんが、彼は我が時代の唯一の批評家です。嚴密な批評で——それは、ザ

リアの特色です。人々が時日を守り、雑誌社の方を緩和したならば、成功するでせう。ビエセダが存在しても、私の考では、それは、少しも、競争でもつて、ザリアを害するやうなことはないでせう。然し其はこれからは害するかも知れません。さようなら。あなたが私に好意をもつて下さることを感謝します。樹は芽を出しました。もう春になりかけました。さようなら、間もなく御目にかゝりませう。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

後生ですから、私を忘れないで下さい、數行かいて下さい。

ストラホフに

一八七一年三月十八日(廿日) ドレスデンにて。

先づ第一に、非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたの御手紙に、かくも長い間御返事しなかつたことを御許し下さい。境遇が罪あるのです。暫く私は病氣でした。そして殊に、私は癲癇の發作の後では、暗らい気分が起つて來ます。私は絶望する程へとくになつて了ふのです。昔は、此氣分は發作後三日間つきましましたが、今は、ドレスデンでは他の所にゐるよりも非常に少なくなつてゐますが、七日八日とつゞくのです。それから、私は仕事の爲に悲觀してゐます。私は力が盡きました、私は

非常に苦しんで書いてゐるのです。サン・ペテルスブルグの氣候には全く私は不馴れなのですけれども、ロシアに歸らなければなりません。然し、それでも、如何しても歸らなければなりません。こゝ言ふ一切の悲觀の數々を並べたてても無益です。要するに、一切のものが私には外れて了つて、あなたの手紙をうけとつて以來、非常にあなたのことを思つてゐましたが、今になつてやつと、あなたと御話しすることが出来るのです。

あなたの御手紙をよんで、何と言ふ悲しい苦しい考が、私に起つたか、あなたは御想像になることも出來すまい。それは一體何ですか。ザリアの獨創を有する一切のこと、他の雜誌の中にあつて、特別な個性的な姿を與へる凡てのこと、彼らにとつて一切のことが、成功に障礙を與へるのですか。それは、純粹の文學批評のあるロシア唯一の雜誌です。それは慥かです、何故と言つて、雑誌が必要である所のものを、凡てのものが見てたからです。ザリアに特性を與へてゐるのは是です。彼らは、饒舌や嘲笑でもつて驚いてゐたのです。反對に、各號で、最も屢々、その觀念を固執しなければなりません。未來は彼らのものです。他の雜誌がどんなことをしてゐるか私は知りません。然し、ザリアを受けると、いつも、私は殊にあなたの論父の所を切つて、讀むのを喜んでゐるのです。いゝですか、私は全然あなたと意見が一致してゐるのではありません。(例へば、方式や調子に就いてです、即ち、あなたの非常な柔しさを、それから、文學や人生のある現象に於ける誇張やです。)然し、興味は常に非常なものです。あなたのカラムジンは、非常に深い、非常に男らしく明快なもので、こちらで私は、かゝる聲が尙我國に

存してゐることを喜びとした程です。あなたは行きかゞりで何か私に書いて下さつた、私もあるものをよみました。私の批評する限りでは、人々は、それが時代逆行的存在であるといつて批難したのです。あなたの編輯局は他のものとは一所にならないでせう。

とに角、あなたの文は、黙することの出来ないもので、また、さうしてはいけないものです。勿論、あなたの新しい関係を知れば、辭職の半分には、償してゐます。そんなら。ニコラス・ニコライエギツチ、あなたは、どう決心されますか。恐らく、三四ヶ月の中に、我々は會ひませう。その時、我々は心ゆくまゝに御話ませう。然し、今の所は？ いゝですか、今の所は、ザリアに、何か傑れた論文を發行することを續け、秋になつて、あなたの御境遇を考へませう。何故といつて、もし、あなたがザリアで慥かな全くあなたの考に相當した状態に、身をおちつけてゐることが出来ないなら、それはそこに止まる苦痛に償ひませうか。(私は自惚なんぞは考へにおきません。私は只、批評のことを、我國に於ける健全な批評をもせる文學機關の存在を考へてゐるのです。それで、もし、ザリアが其を自ら必要でないとするなら、どうすることが出来ませう。

ニコラス・ニコライエギツチ、私は今心を打ち明けてあなたに書いてゐるので、此手紙が我々の四つの眼中に這入ることを望んでゐるのです。時に、あなたは、全く筆の行きかゞりで、手紙の中に、あなたが文學の思想を書かうと欲してゐられると御書きになりました。それはどんなものでせうか。そして如何なる結果をあなたは起されるでせう。あなたは、アポロン・グリゴリエフ及び我々の昔の雑誌の發

表時代をあけられました。我々の生活の此時代は、深く眞面目なものであつて、あなたの記憶中では、恐らく愉快でもあつたことは、私にも餘りによく解つてゐます。(あなたの青年時代の記憶として)然しそれを書くのは餘りに早くはないでせうか。今は興味があるでせうか。それは、少し早すぎ、他人にとつては、興味があるまいと私は思つて居ります。けれども、斯ういふ考が心に浮んで來ました。

あなたが、普通の批評的論文の外に、何か重大な眞面目な作物、(殊に他の形式で)歴史的文學的の新しい或る物を書くといふ企ては、實際素敵なものです。(御注意——例へば、あなたがあなたの研究時代を思ひ出されたカラムジン論の面白い熱烈な文を、私は非常に愉快によみました。)もし、ザリアが、あなたにこれ程の暇を與へるなら、あなたは終までに、何か書く準備をすることが出来ませう。例へば、ビエセダに就いて、あなたはどうか御考へですか。そこには、全く、文學批評がありませんが、あなたが夏の間にかかれるものをのせることは、決して拒むまいと思はれます。そして、それは、何か他のことをする爲に、あなたの役に立つでせう。私は婉曲に言つたり、遠廻しに言つたりすることを欲しません。それですから、あなたに打ち明けて言ひませう。それは、ザリアに對する反逆と見なすことは出来ません。私は、昔の旗幟を捨て、他の旗幟の下に逃げるあなたにすゝめるものではありません。然し、この場合は、今の問題を解決するに、一切のものが含まれてゐることを御承知下さい。ザリア自身は、あなたの寄稿を望んでゐるのですか。彼はそれを尊重してゐるのですか、ゐないのですか。何故となれば、それは短時日の中に明かにされるに相違ありません。

ビエセダは、私は第一號をよみましたけれども、それがどんなものであるか、私は少しも解りません。彼らは私に雜誌を送つてよこして、私に寄稿を頼みました。いゝですか、私に暇があつたら、私は喜んで寄稿させよう。私は、負債の外には、何人とも、何物とも關係がないのです。然し、金はそんなに微妙なものではありません、金は金で返せます。(それは、私がザリアの私の小説のことを考へまいと欲してゐるのでは決してありません。私はそのことを考へてゐます、非常に考へてゐるのです。私はどうしてもそれを送りませう。)

私は尙繰り返して申します、私がペテルスブルグへ歸つて、親しい人々と會ふ機会を、一日千秋の思ひで待ちに待つてゐるのです。然し、尙、一つの御願ひがあります。時に、私が近く歸ると言ふことを決定的に、今は、話さないで下さい。私は、債権者が、少くとも、私の歸國後一週間は、私を落ちつかせておくことを欲してゐるのです。私は彼らが私に飛びかゝつてくることを期待してゐます。私は金をもたないから、恐怖を感じます、私には希望がありません。

それで、何か私に走り書きして下さい、ニコラス・ニコライエキツチ、私はあなたに忠實です、あなたに非常に眞實に話しました。私の宛名は前に同じです、(いつも郵便局留置です。)

私は全く趣味をもつてゐません、ニコラス・ニコライエキツチ、それでなければ、私は、非常に苦しんで書いてゐるのです。それは何を意味するでせうか。私はそれを悟ることが出来ません。私は只、それがロシアの要求であることを感じます。どうしても、歸らなければなりません。あなたが忘れずに私

の小説のことを御話し下つたことを、私は非常に感謝します。あなたは、よく私を奨励して下つた。調子に就いては、私はあなたと、最高程度に、一致して居ります。私は長い間、それを支持することが出来ないので苦しんで居りました。ロシアに歸ると、私は小説を中止しなければならなくなるでせう。とに角、私は今年小説を書き終りませう。

私の困つてゐることを御説明下さつたことを、私は非常に感謝致します。尙さうしなければならなかつたのなら、私はあのやうな手紙は書かなかつたでせう。私はあの時は、神経のいら／＼した恐ろしい病的状態にあつたのです。

あなたは、此夏をどこで御すごしなさいますか。都會ですか、田舎ですか。私が前もつてそれを知るのはいゝことです。私は夏の最中に行くやうに思はれます。親愛のニコラス・ニコライエキツチ、我々の國を出た時は何と言ふ苦勞だつたでせう。我々は只一人で、若い妻と共に出發しました。そして、今は同じ若い妻と共に、また子供を連れて歸國するのです。秘密ですが、一人は十八ヶ月年をとつて居りもう一人は、尙、X、Y、Z、です。旅行するのは何と言ふ苦勞でせう。

あなたに全く忠實なる

フィオドル・ドストイエフスキイ

マイコフに

一八七一年三月十九日(四月一日) ドレスデンにて。

非常に親切な尊敬する友、アポロン・ニコライエギツチ、後生ですから、私の御頼みした通りにして下さい。そして、辯護士の手はその事件を任せて下さい。あなたに此前の手紙を送つて、私は事件が遂々進行してゐると思ひました。然し、また新らたな通信が始まつて、事件の進行は、まる一ヶ月ものびくになつてゐます。

割引のみならず、他の多くのことは、差し支へありません。然し、あなた御自分でも、それは不可能であると全く認められてゐるのです。私もあなたも、割引のことは、少しも知りません。あなたは私の考をきいて、手紙を書き始められます。そして、事件は尙のびくになりません。ステロフスキイが、かゝる割引を以てして、もう一度我々を欺くのではないか如何か、どうして知ることが出来ませう。

その時は、私に同じ決心です。あなたが御自分で御選びになつて、辯護士に、此事件を御任せ下さい。我々が親愛なる人よ、あなたが私を生きくさせて下つた傑れた御手紙に御返事しないのを許して下さい。何故と言つて、こゝでは、我々の手紙は、生活を思ひ起させます、御解りですか。然し、今は、私は全く仕事に追はれてゐます。私は遅れてゐます。怠惰からではありません、それが、私に書くこと

を何にも教へないからです。それは、只、意氣沮喪で、苛責に過ぎません。私は、ロシアに、行かねばなりません。こゝにゐては、悲觀が私を粉碎します。私はルスキイ・ギエストニクに約六帖送ることが出来ると思ひました。然し、三帖も送れないでせう。三月號は、私の小説がのせすに止ませう。私には作物を送る暇は、數日しかありません。私はあなたに澤山御返事しやうと思ひました、そして、あることは、詳細に書きたいと思ひました。そうする事は出来ないのです。さようなら、あなたを接吻しますそして、「キリストは蘇がへり終へり」とあなたに言ひます。(譯者曰、四月一日はキリスト復活祭なれば斯く言へるなり。)妻があなたに宜しく。あなたの名付子は、すてきに丈夫で、我々に、非常な喜びを與へてゐます。あなたが、公式の調子で書くやうに請求された短い手紙は、この中に同封しました。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

あなたの御好きなやうに、辯護士を撰んで下さい。あなたの御考へ次第。私は誰も知りません。

同じ人に

一八七一年四月一日(十三日) ドレスデンにて

非常に尊敬するアポロン・ニコライエギツチ、私は直ちにあなたの電報を受け取りました。私は少し

も解りません。何故、サン・ベテルスブルグに行かねばならぬのでせうか。私が「文學者救済基金會」に金を頼んだとしても、一番工合のいい時で、私の手に這入るまでには、三週間か一ヶ月はかゝりませう。そして、あなたは電報を御送りになつた。何が起つたのでせう。

元の金額の元の訴訟に外ならぬものとすれば、それは、私の恐ろしい事を決心する勞苦、即ち、直ちに出發するといふことに償ひしません。私に金があつたとしても、物質的の不可能があります。それで考へて下さい。もし、私が直ちにベテルスブルグに歸るならば、私の債權者は、私をドレスデンに歸ることを許さないでせう。そうすれば、私はベテルスブルグに居り、妻はドレスデンに残つてゐることにあります。何故といつて、百ルウブルのみならず、四百ルウブルあつても、子供をつれて出發するといふことは、私に不可能であります。(負債其他)そして、彼女はドレスデンにゐるとしても、八月までには、出產するに相違ないのです。私は、六月の始めにしか、金をルスキイ・ギエストニクから受けとることは出来ません。(それは慥かです。)然し、彼女は、金をもつても、私かゝるなければ、臨月の身をかゝへて腕に子供を抱いて一人で歸つてくることは出来ません。のみならず、女子を雇ふことは不可能です。女達はロシアに行くことを欲しません。斯様に、彼女は私かゝるないと出發することは出来ません。従つて、ドレスデンに止り、出產するの止むなきに至ります。そして、秋遅く赤坊を旅行させるのは不可能のことですから、彼女はこゝらに、一年か十八ヶ月止まらなければならぬのでせう。私は彼女かゝるなくともいいのです。それに、臨月なのでから。

然し、ステロフスキイ全部と、私の全事件を以てしても、これに償ひしません。

後生ですから、直ちに手紙を書いて下さい。ステロフスキイの行はんとする訴訟は何ですか。私の元の事件は、明々確々たるものです、それを争ふことは出来ません。

後生ですから、上手な辯護士、本當の辯護士を雇つて下さい。

とに角、あなたが私を如何に親友として取り扱つて下さるかを知り、感じてゐます。私はそれを有難く思ひ忘れることはありません。

全くあなたのものなる

エフ・ドストイェフスキイ

後生ですから、迅速に書いて下さい。夜、私に最も烈しい發作が起りました。私は全く碎かれ、衰へへとくになつてゐます。

追伸——文學基金會は私に百ルウブルくれるでせうか。一八六四年、私は外國に行つて、病氣の爲救ひを乞ふたことがありました。(あの時、さうしないと、癩癩に苦しんで、殊にベテルスブルグの氣候の爲、どうすることも出来なかつたでせう。)その爲、ラヴロフやある人々は、非常な噂をして、私は、委員を止めなければなりません。それが、苦しめる不幸者、肉體的にも精神的にも、不具となつてゐる病者——永久の勞働者——であるとしても、彼らは助けやうとはしないでせう。然し、それが虚無主義者であれば、直ぐに彼らは金をくれませう。委員はどんな人々で形づくられてゐるか思ひ出してみて下さい。彼らは恥かしくて私を拒絶するでせう。(譯者曰、ドストイェフスキイは、一八六三年七月廿

四日、只一度、文學基金會から、助けをうけ、全著作を抵當とし、五分の利子を以て、千五百ルウブルを一八六四年二月一日まで借り、期限満ちてそれを返却したることあり。

同じ人に

一八七一年四月五日(十七日) ドレスデンにて。

我が親切な友、アポロン・ニコライエギツチ、私は昨日も一昨日もあなたから手紙をうけとらないので、(電報を説明する所のもの)今は、此の様子でもつて、これは、誰か無頼漢の仕業であつたと論決するの止むなきに至りました。四月一日、私は突然、サン・ペテルスブルグのあなたから、電報をうけ取りまして、その中で、あなたが、ステロフスキイ事件(訴訟)に就いて、直ぐに去つて、出發してくるやうに、そして、文學基金會の金を借りるやうにすゝめられました。

私は、此卑怯なるX……なるものが、一切の私の家庭の事件やステロフスキイのことは、非常にこく知つてゐることを認めました。私に、ある材料から、これは冗談ではなく、私がサン・ペテロスブルグへ行くやうに、何かの見つもりであると判断してゐます。のみならず、私はそんなことを笑ひます。然し、とに角、その事件は、非常に本當らしかつたので、私が如何なる基金會にも金を頼む必要がなく、今もつてゐる丈それ丈、私は、だましに乗り、出發したかも知れませんでした。

とに角、私がペテルスブルグに歸ると、私の待ち望んでゐるものを認め、豫感してゐます。私を憎む是丈の小敵は、どこで出來たのでせうか。私は、誰にも特別に悪むことはしなかつたやうに思はれません。

然し、その中、彼らは捕へられるでせう。親愛の友よ、私の最近の手紙があなたに引き起した驚駭を御許し下さい。あなたが、このことに就いて何か書いて下されば、いゝと思ひます。

今の中は、おさらばです。一切の事件がまとまると結構ですが。此夏のあなたの居所を、正確に御報らせ下さい。

家族はあなたに宜しく。私は全くあなたのものです。

エフ・ドストイエフスキイ

同じ人に

一八七一年四月廿一日(五月三日) ドレスデンにて

我が親愛の友よ、あなたの四月四日の説明の手紙に御返事せず、暫くそのまゝにしておいたことを御許し下さい。そして、此暫くは長い時となりました。私が、電報を送つた假定的のふざけた匿名者を、最近の手紙で、無頼漢をよんだのも、尙御許しを乞はばなりません。我が親愛の友よ、實際、斯様な事が、冗談の爲に、他人によつてなされたならば、(私は匿名の侮辱の手紙を受けとることがよくあるの

です、私は苦しんで、その人を侮辱する権利があるといふことを、あなたは屹度御解りになるでせう。凡て是らの矛盾は、始め電報の百ルウブルの爲に生じました、何故といつて、私はあなたから、少しも前以て報らせをうけなかつたので、電報を開くや否や、このことに、疑ひをさしはさみました。然し、殊に、私の疑惑の念を高めたのは、あなたの説明の手紙が遅れ、電報を説明する第一便で來なかつたことです。そこで、私は全く信じ、そうあなたに物語つたのです。今、私は凡てが解りました、そして、あなたの友情は、私を非常に喜ばせました。然し、基金會が、如何に私の金借りの頼み（即ち、あなたの私に對する請求）に對して傲慢で、如何に擔保を要したものであるか、あなたは御解りでせう、そして、返事の中には、如何に高ぶつた調子があつたでせう。もし、虚無主義者が頼んだのなら、彼らはこんな風な返事をしないでせう。の歸國に就いては、あなたがよく御解りになる爲に、あることを説明しやうと思ひます。歸國する爲には、また、一錢も身につけずに到着するとしても、私には、あなたの御信じになるよりも、非常に多くのものが必要です。人が長く一場所に住んでゐると、出發することは容易なものではありません。四年の間には、あらゆる衣服は穴があき、修復は高くかゝります。喻へでなくいつて、一千ルウブルより少くは、それは我々に不可能です。そして、それも最もみじめな状態です。それは單に旅行に關するのみでないことは、あなたはよく御解りでせう。旅行全部として、アンナとリュバをつけて、我々は百二十ルウブル入ると勘定してゐます。復活祭の爲に、ルスキイ・ギエストニクから金を送つて來ました。然し、旅行の爲に、私がわざ／＼頼んだ千ルウブルの金は、六月ま

で待つやうに頼んで來ました。けれども、私には、待つことは不可能です。四月の始めに、妻はお産をするに相違ありません。お産の前月より、産前二ヶ月に出發した方がいゝのです。何故といつて、此後の場合には、不可能でせうから。それで考へて見て下さい、我々は下部もつれず、リュバを重荷にして出發しなければならぬのです。産後に出發することも亦不可能です。赤坊をつれては、十月に歸ることも出來ません。最後に、ドレスデンに、もう一年止つてゐることも、尙一層不可能です。それは、アンナ・グリゴリエワナの打ち勝つことの出來ない絶望の爲に、彼女を殺すことを意味します、何故といつて、彼女は、本當に郷愁に悩んでゐるのですから。私にとつても、歸國しないことは不可能です。第一ある理由から、私がこゝに止つてゐれば、小説を書き終へることが出來ません。そして、金銭上の關係から多くのものを失ふかも知れません。凡てこれらのことは、お目にかゝつてから御話ませう。かうして、第一のことは、歸るといふことです。私はカトコフに、送金を急ぐやうに、特に切なる願ひを手紙でかきました、そして彼にその理由を説明しました。然し、彼が早くしないならば、かういふ風になるのが殆ど慥かであるならば、その時は、どうしやうもありません。その時は、正しく、私はステロフスキイの金の時は、望みを抱くことがありません、そして、千ルウブル（出發に必要な）をまとめる爲に、私は自分で始末をつけるやう努めるのです。

かうして、あなたに、いつも悲しく、痛切に御願ひすることは、ステロフスキイのことを早くして頂くといふことです。それに、下の一事しか、なすことを早めることは出來ません。それは、出來る丈早

く、辯護士に（グウビンだと思ひます）あなたの権能を渡し、正式に（裁判の道を経て）直截に力強くその事件を開始することを彼に頼むことです。あなたが最近の手紙におかきになつた通り、慥かにです。即ち、第一に、直接完全なる支拂ひを要求し、支拂はなかつたならば、裁判所に訴へて、倍償利子を要求するのです。（御注意——それは全く合法的のものです。）ステロフスキイは、倍償利子を要求するのは私の方が非常に正當であることを悟るでせう、私は、彼が訴訟を冒すことを欲しないもので、必ず支拂ふと信じ續けてゐます。必要なことはそれ丈です。然し、支拂ひをせすに、長く延引してゐるのに、訴訟の経過が、それを得ることが出来ることを示してゐるのに、何故、我々に屬するものを失はねばならぬでせうか。實際をいふと、此倍償利子を拂へば、彼は、それ以上にも拂はなくてもいゝのです、何故といつて、彼は、私の著作を買つた時、三千ルウブルで賣ることを私に強ひ、少くとも三千ルウブルをこまかしました。何故といつて、彼は私の爲替を買ひ戻し、私に、債權者を飛びこませ、最も恥づべき方法で、突然、支拂ひを要求したのです。（何故といつて、例へば、D……は、兄の死後、私が兄の手形を私の名にかき代へたならば、支拂ひを直ちに要求しないと、私に誓つたからです。）然し、とも角も、親愛の友よ、事件を遅らさないで下さい。グウビンをせき立てて下さい。私のロシアに歸朝することは、此事件に關係してゐること、従つて、私の全將來は之に關してゐること、私は歸らなければ、殆ど死ぬかも知れないことを、記憶して下さい。

ステロフスキイは金を持つてゐます、私に持つてゐる筈です。彼が金がないとあなたに斷言した際に

も、未亡人から、セロフを買つてゐました。そして、彼女は可成り金を支拂はせたに相違ありません。私は澤山あなたに話したいと思つてゐます。我々が會つてからにします。我々はその時、澤山話ませう。あなたは夏をどこで御過しになりますか。私にとつて、現在生活の變化は、非常に重大です。そして、それは、今迄私を落ちつかせなかつた事件です、それですから、仕事をすることは出来ないのです。殊に、私が小説を遅らせざるの止むなきに至つたら、それはどんな損害を忍ぶことになりませう。それは恐ろしい。全くあなたのもの。何か私に走り書きして下さい。あなたの

エフ・ドストイェフスキイ

ストラホフに

一八七一年四月廿三日（五月五日） ドレスデンにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、いつものやうに、あなたの御手紙は、非常に興味のあつたものでした。然し、何と言ふ不可思議な報導でせう。あなたが全くザリアと絶縁せられたことを、私は想像することも出来ません。私はそれをあなたの手紙から判断しました、それから、あなたは休息を得て嬉しい、翻譯に没頭すると言はれます。否、こんな風に行動してはいけません、ニコラス・ニコライエギツチ。あなたは斯様に重大な雑誌を見捨てることは出来ません。我々は只一人の批評家も持たな

いのです。あなたが、文學的に言つて、只一人です。私は二年の間、一つの雑誌があつて、その重なる特性は、他雑誌に比して、批評にあることを喜こんでゐました。さて、彼らは、自ら、彼らの獨得な、創意のあるもの、自己個有の屬性を破壊して了つたのです。私はあなたの論文に酔つて居りました、私はあなたの熱烈な讚美者です、そして、あなたは、私の外に可なり澤山の讚美者を有して居られることを信じ、如何してもあなたが繼續しておやりになる外はないことを信じてゐます。其を見捨てることは卑怯なことです。斯ういふ言葉を許して下さい。然し、久しい以前から、個人的にあなたの性格を知つて、あなたが始めの失敗に、過度に勇氣濫喪して居られることを私は信じてゐます。然し、失敗は、私に、如何なる仕事にも來るものです。それから、あなたは御自分で、それが堪へ切れなくなつたのです。あなたの仰るやうに、あなたは休息されるといふでせう、然し、翻譯に閉ぢこもつてはいけません。小單行本を御出しになるといふのです。それでは、何故、そんなことをしないで、需要を避けるやうにして身をおかうとされるのですか、新しい雑誌（ビエセダ）に身をおかうとはされないのですか。ビエセダには、あなたを、ザリアよりも、よりよく理解し、一層深くあなたを觀賞することが出来る人々があるやうに私は思はれます。

ニコラス・ニコライエギツチ、同時に、私は、斯う言ふ結論を引き出しました、そしてあなたも同じく御存知に違ひない。然し、私が最近まで深く知らなかつたと同様に、あなたも、全然深くは知つて居られませんでした。それは斯う言ふことです、非常な騒動の爲、日常生活の騒動から始まつて、純文學

界に波及して、社會的文明と智識は、中絶せられ、散亂せられ、低下されたのです。人々は、彼らか文學にたづさはる暇がないと思つてゐるのです。（殆も、それが遊戯であるかのやうに。何たるひどい教育でせう。）批評の感情と、全文學的要求との標準は、恐ろしく低下しました、それですから、如何なる批評が現はれやうとも、必要な印象を生じなかつたのです。ドロロコウボフとピサレフとは、人類精神の領土たる文學を排した爲に、慥かに成功を拍したのです。然し、かゝることを獎勵するのは不可能のことです、そして、批評的活動を繼續しなければなりません。私の忠告を許して下さい、然し、あなたの立場になつたら、私がどうするかと言へば上の通りです。

あなたの單行本の中で、あなたは、すてきな感想を書かれました。殊にそれは、文壇に始めて表はされたものでした。全く重要な眞實の天才は、常に、國民的感情に訴へることになつて、國民的となりスラヴ主義者となるものです。キレエフスキイや、コムアコフ以來に、チユドデ僧院の凡ての年代史家を生んだブウシユキンの笛吹きは、凡てのスラヴ主義より遙かに以前に、その根本的觀念を披瀝し、更にまた、人々の今日まで表はすことの出来なかつた比類なき深さをもつて、その觀念を表現したのです。尙、ヘルツェンを御覽なさい。此の道に歸らうとする何たる悲しみ、何たる要求をもつてゐたでせう、人の惡い性質の爲に、それをなすことが不可能であつたのです。凡て國民的なものに歸ると言ふ此法則は、詩人や文學者に探求し得られるのみならず、あらゆる他の活動の領域にも探求し得られるのです。斯うして、人々は他の法則をも引き出すことが出来ます。もし、人が眞に天才を有して居るならば、彼

は社會の腐敗した層から、民衆に歸ることを求めるでせう。然し、彼が眞の才を持たないならば、此の腐敗した社會の層に止らざるのみならず、本品を去らんとし、カトリシズムに改宗せんとするでせう。……云々。ベリンスキイ（あなたの今迄ほめて居られる）は、慥かに、力の弱い片論の才を有して居りました。そして、是が爲に、彼はロシアを呪ひ、ロシアに、わざと、あれ程の害をしたのです。（人々は後になつて、ベリンスキイを尙さう言ふでせう、あなたは御解りになりませう。）然し、此思想が、絶對に、特別に獨特に、發達するに相違ない程、あなたの心の中に、それが非常に強いと言ふことが、今の問題です。此主題に就いて論文をお書きなさい、それを獨特に押し廣げなさい、それをビエセダの中にのせなさい。彼らは非常に喜んでせう。それは同じ批評となりませうが、然し、形式の違つたものです。一年に斯様な論文を二つか三つお書きなさい、私はその成功をあなたに豫言します、その上、公衆はあなたを忘れないでせう、そして、あなたは、よりよく理解のある境遇に身を移されたと慥かに言ふでせう。ビエセダは、ザリアではありません。殊に、何故、文學を捨てるのですか。

然し、私を許して下さい、我々が頭で話したならば、我々はもつとよく理解し合ひませう。あゝ、あなたがキエフに行かれるのなら、もう、サン・ペテルスブルグで、あなたに會ふことは出来ないでせう。私は六月にしか歸れません。金の事情で斯う定まつたのです。それでは、斯うして秋になつて、ペテルスブルグを去つて、あなたが短い手紙を私に書いて下されば、結構です。私は喜びをもつて、あなたの手紙を受けとります。然し、私の小説に就いて、あなたの最後の意見をきいて、私はあなたに斯ういひ

ませう。第一、小説の中であなたをよく思はれたことに對して、あなたは私を餘りに高く評價して居られる。第二、あなたは、非常に正當に、その重なる缺點を示された。さうです、私はそれを苦に病んでゐたのです、私は今も尙苦しんでゐます。私は今まで、自分の方式を用ゐることを少しも知りませんでした。（私はきゝませんでした。）離れ／＼になつた多くの小説や短篇が、私に於いて只一つに混じてゐます、それで、私には制限も調和もありません。一切これらのことは、非常に正確にいはれてゐます。私はそのことを、自分で、長い間、どんなに苦しんだこととせう。何故といつて、私はそれを意識してゐますから。然し、尙一層悪いことがあります、自分の方式を吟味することなく、詩的法悦にひきずられて、私は自分の力以上の藝術的觀念を表現することを負擔してゐます。（御注意——例へば、斯様にして、詩的法悦は、ギクトル・ユウゴオに於いては、いつも、實行方法よりも一層力強いものとなつてゐます。プウシユキンに於いてさへも、一つになつた痕跡が認められます。）そして、私は斯うして自己を駄目にしてゐます。——私は此愛する所の旅行や、いろ／＼の心配は、小説を多く傷けるだらうと付け加へて申上げます。然し、私はあなたの御同情を感謝致します。久しい間、尙ほ、食ふことが出来ないとは、何といふ残念なこととせう。今、私はあなたに全然誠實なるものです。

同じ人に

一八七一年五月十八日(廿日) ドレスデンにて。

非常に尊敬するニコラス・ニコライエギツチ、あなたは直接に、ペリンスキイによつて、手紙を書き始められました。私はそれを豫知してゐました。然し、それでは、コンニコウスのバソイ(譯者曰、一七八九年七月十四日のパリーの暴動にして一政權を握れるもの)を御覽なさい。あなたは、それが人間の缺乏の爲、事情の爲、斯様なものゝ爲失敗したといはれる人の一人なることは、あり得べきことではうか。全十九世紀の間、此運動は、地上の樂園を夢想してゐました、(フアランスエルから始まつて)。(譯者曰、フアランステルは佛國の社會主義者フウリエの共和共産のユートピアなり。)そして、人がそれらの人々の仕事にとりかゝるのを見るや否や、(今度は、四八四九年)積極的なあるものをいふことの低級なる不可能を現はしました。實際、それは常に同じウツオであつて、理性と經驗(實證主義)によつて、世界を改造せんとする夢想なのです。新しき何物をいはんとする彼らの不可能さは、一時的ではない現象なのであることを證する多くの事實が私にあるやうに思はれます。彼らは首を切つてゐます。何故ですか。只、それが最もたやすいからです。何物かをいふことは、無限に困難なことです。あるものを欲することは、それを達したことはありません。彼らは人間の幸福を欲してゐます。そして、ルウ

ソオによつて與へられた幸福と言ふ語の定義に満足してゐます。即ち、經驗によつてさへも正當と認められる空想に満足してゐるのです。パリーの火事は、奇怪なことです。それは成功しません、世界を殺します。』何故と言つて、コンミニウヌは、世界やフランスの幸福以上のものですから。然し、彼らには、(多くの他の者にも)此憤起は、奇怪なものは見えませんでした。反つて、美しいものに見えたのです。斯様に、新しい人道では、美的觀念は亂れてゐるのです。社會の道德的基礎(實證主義)によりて取られてゐる所のもの)は、結果を與へないばかりでなく、自ら已れを定義することも出來ず、欲望と理想の中に混亂してゐるのです。それでは社會が斯様に作られてゐるのではない、それは幸福に向ふ道ではない、人の今迄信じたやうに幸福はそこに起因してゐるものではないことを、證明する爲には、餘りに少い事實であると言ふのですが。然し、それでは、どこにそれは起因してゐるのですか。人々は澤山の本をかいて、重なることを見失つてゐます、西歐では、人々はキリストを失つて了ひました、(カトリシズムの誤ちによつて)西歐は、その爲に、只、その爲のみで、失墜したのです。理想は變つてゐます、如何にそれは明かなこととせう。ジェルマン、ロオマの世(フランス其他)主君の失墜の傍らに、ロオマ法王の權力の失墜。何と言ふ暗合でせう。

是れらの一切のことは、大いなる長い議論を要しますが、私の言はんとすることは上のやうです、もし、ペリンスキイ、グラノフスキイ、その他是らの一隊が、今見るとしても、斯う言ふでせう、『否、其は我々の夢想したものでない、否、それは眞の道から遠ざかつてゐる。もつと待て、光明は現はれる

だらう、そして、進歩ははびこつて行くだらう、人類は、健全な主義の上に立脚し、幸福になるだらう』と。一度、かゝる道にふみこんでは、コンシユウヌやフェリツス・ピアより以上には、どんな所にも達するものではないことを、彼らは決して承認しやうとは思はないでせう。彼等は非常に愚鈍であるのでその事件の後、今も矢張り、それを承認しないで、夢想を續けてゆくこととせう。私はベリンスキイを人物としてよりは、寧ろ、ロシアの生活の現象として非難します。それは、ロシアの生活の腐つた愚かな恥すべき現象でありました。此現象の唯一の辯解は、それが避くべからざるものであることです。そして、あなたに断言しますが、ベリンスキイは、次ぎのやうな考を抱いて心を安んずることとせう。コンシユウヌは、成功しなかつた。何故と言ふに、就中、それはフランス的であつたからだ、即ち、それは、國民性の傳染病を有してゐるためである。それだから、國民性の跡のない、私と同様に、その母(ロシア)を打擲することの出来る民衆を探さなければならぬ。』と。そして、唇に泡を出して、又もや、その醜い論文を書き始め、ロシアに恥を與へ、その偉大な發現(プウシユキン)を否定し、全人類の共通ツト主義と我國の陰謀家の虚偽とを、喜んで歓迎しました。然し、尙ほ斯う言ふことがあります。あなたは未だかつて彼を見知つてゐられませんでした。私は彼を知り、彼を見、そして、今は全くよく彼を理解してゐるのです。此男は、彼自身及び、民衆を指導した人々を、比較してみると、キリストの傍におくことも出来なかつたのです。彼は自分及び彼らの中にどんなに、同じやうな虚榮と、憎悪と、短氣

と、忿怒と、卑劣と、殊に自惚があるかを悟ることが出来なかつた。彼はキリストの代りに誰をおくべきかと自ら問ふたことがなかつた。恐らく、斯様に醜いのに、我々をおかうとしたのか、否、彼は、自分が如何に醜いかを決して考へたことがないのです。彼は途方もなく自己に満足してゐた。それは利己的な臭い恥づべき事柄でありました。彼が能才を有してゐたとあなたは仰います。そんなことは少しもありません。あゝ、グリゴリエフは、その論文中で、如何に、彼を美化して書いたこととせう。私は彼の純藝術的批判(例へば、「死せる魂」に就いて)をきいた時に、私が子供らしく驚いたことを、覚えて居ります。彼は奇怪な程、自己を皮相的にもつて行つて、卑しげに、ゴオゴルの人物になつたのです。そして、ゴオゴルがロシアの悪を告發した時に烏頂天になつて善びました。今、四年間に、私は彼の批評を再びよみました。彼は、プウシユキンが偽りの書き物を捨て、ベルキンの短篇(譯者曰、「田舎娘」等その他の短篇の名稱)や「黒奴」を以て姿を現はした時に、彼を罵りました。彼はベルキンの短篇をつまらぬものと驚く程宣言しました。ゴオゴルの短篇「四輪馬車」では、彼は全然藝術的創造や小説であることを認めず、單に滑稽なる物語としてゐました。彼は、「ユウジエ・イ・オネエギン」の終りの方を排しました。彼は第一に、プウシユキンが、部屋住ひの貴族であることを嘲笑しました。彼はツルゲネエフは藝術家とはならないだらうと言ひました、然し、それは、ツルゲネエフの最も重要な物語三つの肖像をよんだ後に言はれたことでした。彼の批評的意味の虚偽や、グリゴリエフの美化した所の(何故と言つて、彼自身は詩人でしたから)『印象的驚異』の虚偽なることを證明する爲に、私はあなたの

欲する丈かゝる例をいくらでも見出すことが出来ませう。ペリンスキイや、我國の生活の幾多の現象に就いて、我々は今迄、驚くべき多くの偏見を通して判断してゐるのです。あなたのツルゲネエフ論のことを、私が言はないと言ふのですか。私は、あなたの凡ての論文と同様、それを讀みました、——喜びを以て、然し、また、少し怒りました。ツルゲネエフが、立脚地と一面を失ひ、ロシア生活のある印象を言ふ外出来ないと云ふことを御認めになるなれば、また、彼の藝術家としての最大能力も、最近の作に於て衰へたこと（衰へたに相違ないこと）を認めなければならぬでせう。彼は實際、斯うした風なのです。彼は藝術家として非常に哀へました。ゴロツス新聞は、それは彼が外國に住んでゐるからだと言ひました。然し、その原因は一層深いのです。あなたに就いて言へば、あなたは、彼の最近の作に昔の藝術的價値を認めてゐられる。そうではないでせう。或は私が間違つたのかも知れませんが、ツルゲネエフの批判に於ては、あなたに於いては、（恐らく、あなたは、よく自分を説明されなかつたのでせう……）いゝですか、凡てこれは、大地主の文學に外ならぬのです。その文學は言ふべき所のことを凡て言つたのです、レオン・トルストイにあつては、すばらしいものです。然し、此最高度の地主の言葉は、最後のものでありました。それに代る新しい言葉はなくなつたのです、そして、彼にはその暇がなかつたのです、レシエトンコフの徒は、何にも言ひませんでした。レシエトンコフの徒は、奇怪な風で、表現したけれども、藝術の言葉に於いて、新しき或る物が必要だと言ふ觀念をのべました。私はあなたに、サン・ペテルスブルグで如何に會ひたく思つてゐることとせう。私が歸る時に、私は

如何なる觀念も持つて居ないでせう。（我々の間丈です、これが一ヶ月以内であるとを望んでゐます。）然し、金が來ず、時間をつぶして了ふなら、尙止らなければなりません。然し、それは恐ろしいことで、馬鹿々々しいことです。

即ち、私の小説を泥まみれになる程、恥を晒らす程、出来そこねて了ふか、（私はもう悪くし始めました、）今、私が小説の主人となり、それから、いゝものを作り出すかです。私は運で書いてゐます。これが、私の今の斷言です。（これは見て、我々の間丈の話です。後生ですから。）

そして、私は、ペテルスブルグに行つて、第一に、あなたにお目にかゝることを非常に夢想しました。いゝですか、旅行をすることは、あなたにとつて非常に必要なことです。然し、全然、キエフに埋れに行つてはいけません。あなたの手紙は、恐しく私をあなたの爲に心配させるやうになりました。あなたは、私の生活の中で、最も強い印象を残してゐる人々の一人です。そして、私はあなたを眞實に愛してゐるのです。あなたは、只もう、がっかりしてゐるのです。（あなたは死ぬことなんぞを話し始めました）あゝ、我々が互に會ふと、いかに都合がいゝでせう。

そして、ザリアは、もう出る筈のないやうに思はれます。恐らくそうでせうか。何と言ふ悲しいこととせう。もう二ヶ月にもなるが、私は四月號をうけとりません。そして、廣告でもそれを死ませません。私は、ザリアは失敗を免かれることが出来ると思つてゐます。——それは全く計畫です。然し、こんなことは書くとき長くなります。私はザリアの特種化のことは解りません。私は只一般に、雑誌が、（一つ位あ

れば)特種化することは悪くはあるまいと考へてゐます。斯うして、ザリアは、美的批評的方面で賣り出すやうにして、他のもの、他の部分に關係せぬやうにしなければなりません。そして、それは本當に成功するかも知れません。あなたの前に、直ちに私の考を押しひろげることの出来ないのは残念です。

私はあなたの手紙の中で、ツルゲネエフに就いて断はれたことを、喜んでよみました……………私は澤山のことを言ひたいのですが、凡てそれは、我々の會ふ時にゆづります。

あなたに全く眞實に、非常に忠實なる

エフ・ドストイェフスキイ

走り書きでもいゝから、書いて下さい。いつも同じ宛名です。妻があなたに宜しく。

ヤノフスキイに

一八七二年二月四日 サン・ペテルスブルグにて。

非常に尊する忘れ難きステパン・ドミトリエギツチ、何處へ手紙を書いてやるべきかを知つて、私はどんなに嬉しく思つたでう。十一月にも、アレクサンドル・ウスチノギツチは、あなたがシユイスにゐられると言ひました。あなたがキエフに行かれてから、そんなに久しくなるのですか。そして、あなた

は、何故、はつきりと、キエフを御選びになりましたか。(氣候の爲ですか。)悪るいことは、あなたが御健康を嘆いてゐられることです。想像して下さい、私も亦、丁度あなたの御書きになつたやうな咳嗽が出ました。然し、私には、少くも今年は、南國の氣候を念頭におくことは出来ません。此度は、他の事があるのです。私は多分、イタリヤではないが、プロネエジュとキエフに行くかも知れません。我々が會ふことが出来れば、私は全く非常に嬉しく思ひます。何故と言つて、あなたは、「忘れ得ぬ人々」の一人です、私の生涯に明に記念となつた人々の一人です、そして、あなたの名前には、私の思出がかゝつて居ります。ステパン・ドミトリエギツチ、老年時代が來ない中に、我々は、再會しなければなりません。あゝ、自白しなければなりません、老年時代は來てゐるのです。然し、人間はそんな事を考へてはゐないものです、もう一度書いて、終りに満足の出来るものを發表しやうと、尙思つて居るのです、人間は尙人生から何物かを期待してゐるものです。然し、もう凡てのものを受け入れて了つたのかも知れません。私はあなたに私のことを話します。さて、私は全く幸福です、私の考によれば、我々はうまく家政を切り盛りしてゐます、そして、二人の子供がをります、リュバとフェドカで、女の子と男の子です。我々が最後にモスコウに出會つた時のことを、あなたは記憶してゐらつしやいますか。あゝ、あの時は、あなたは頑丈でした。そして、今は、御健康を嘆いてゐらつしやるのです。それで、外國に行かねばならぬのなら、少くとも、健康に歸つて來て貰ひたいものです。私は四年間、外國で、シユイスやドイツやイタリヤやで過しました。とう／＼それは私を恐しく悲觀させました。私はロシアの習慣を失

つたことが、恐ろしく氣になり始めました。私は三つのロシア新聞をよみ、ロシア人と話をしました。然し、それでも何物かが解らないかのやうに思はれました。歸國して、自分の眼で見なければなりません。とうとう私は歸つて來ました。そして、私は何ら特別の謎を見出しませんでした。二三ヶ月かゝれば、新しいものを見て知ることが出來ます。然し、一般に言ふと、外國旅行は、私にとって、大誤算でした。外國に行つて、約二年そこに滞在し、小説を書き、賣り、金を儲け、借金(雑誌の後に残つたもの)を拂ひ、自由の身となり、健康を恢復して歸れるものと信じてゐました。それで、借金は増える一方で、健康(即ち、癩癩)は、比較的少しよくなりましたが、根本的に治ることはありませんでした。然し、我々には子供が生まれました。そして、我々が行けばゆく程、ロシアに歸る爲に、移轉することは困難になりました。私はまだ恐ろしくて負債の契約を結んで居りましたが、とうとう歸ることになりました。——そして、一方から言へば、これが、私の英雄詩です。

私は六ヶ月前に、こちらに來たばかりです。ルスキイ・ギエストニクの中に發表してゐる小説 最後の篇を終つてゐます。夏頃、終るとすぐ、田舎に、トウラ縣に行つて、(それが私の目あてです。)私のリボチカの健康を恢復しやうと思つてゐます。凡てのものが、うまく行つてゐますが、彼女は非常に瘦せてゐます、そして、私は、彼女を此世で最も愛してゐるのです。こんどはフドカですが(彼は我々がこちらへ着いた後六日で、此世に生まれました。今は六ヶ月です。)彼は、去年ロンドンで開かれた育児展覽會(出せば、屹度懸賞を貰へたでせう。)それが我々を不幸にしないことを。

否、我々は再會して話す必要を感じてゐます。私は東方諸國に行きたいと考へてゐます。(コンスタンチノオブル、ギリシャ群島、アトス、ジルサレム)そして、本を書かうと思つてゐます。私はその準備してゐます、換言すれば、讀書してゐるのです。旅行は、一年足らずを要しませう。私は多くのことを書きたいと思つてゐます、それから、本が金をくれるでせう。

親愛なる忘れ難き友よ、私を見捨てないで下さい。何故と言つて、あなたは私の恩人です。私の病氣の治つてゐたあのシベリア旅行前には、あなたは私を愛し、私のことを心の病氣な私を、心配して下さいました。今、あなたが、精神や心の中に何を藏して居られるか、何を心配して居られるか、物事を如何に見てゐられるか、何を欲して居られるか、私は知りたいと思ひます。書いて下さい、時たまにでも書いて下さい。手紙はおろかなものです、私はそれに同意します、全く心を打ち明けることは出來ません。然し、人はそこには何物かを物語ることが出來ます、そして、斯うして、舊友の何物かを知るので

私はマイコフに屢々會つて居ります。そして、始めて會つた時に、彼にザイドレルのことを話しました。(ザイドレルは、モスコウかモスコウの近くに居るやうに思はれます。)私の今の生活は、勞作の生活です。私は苦心して書いてゐます、そして、深夜に書きます。然し、こゝにゐても、働き乍ら一人ほつちであることは不可能です。それですから、私は舊友に會ふのです。私にはまた新しい知合ひが出來ました。

妻は非常にあなたに宜しくと申します。そして、あなたが生きてゐられる記しを見せて下つた時に、非常に嬉しく思ひました。彼女は、もう前から、私を通じて、あなたのことを餘りに知り過ぎてゐるのです。そして、あなたを、(モスコウで瞥見するや否や)、私の友の中の最恩人と見做してゐるのです。私は今丁度、幸ひにも金を手に入れることが出来ました。そして、取り急ぎ、百ルウブルの負債をあなたにお返します。親しき友よ、前にそれを知らなかつたことを叱つては下さるな。私は殆ど少しも持たなかつたのです。我國では、私は恐ろしい儉約をして暮して居りました。金を手に入れることがあつても、あなたの御住所を知らなかつたし、また、餘り早く無くなつて了ふので、返へす暇もなかつた位でした。——然し、これをあなたに御返して、もう一度、あなたに感謝致します。此百ルウブルは、あの時、ジネヴで、私を決定的に救つてくれました。さようなら、短い御手紙を間違ひのないやうに御待ちしてゐます。そして、恐らく、此夏、我々は會ふことが出来るでせう。そうなるといふのです。

全生涯、あなたに眞實に誠をつくし、あなたを非常に愛する

フイオドル・ドストイエフスキイ

妻があなたに御挨拶し、彼女をお忘れなきやう願つて居ります。私の住所は、セルブコフキイ街、十五番、技藝學校傍。

御注意——アルカンケルスキイ家とお書きになるのは無益です。

アルチエフスカヤ夫人に

一八七六年四月九日 サン・ホテルスブルグにて

非常に深く尊敬するクリスチナ、ダンロヴナ、

あなたに直ちに御返事をしなかつたことを、御許し下さるやうに御願ひ致します。私が、三月九日のあなたの御手紙をうけとつた時、私はもう仕事にとりかゝつてゐたのです。私は、いつも二十五日頃に終る習慣にしてゐますけれど、印刷や發送などで、今にごたくしてゐるのです。そして、今月は、その上、私は感冒にかゝつて、まだ治らないのです。

あなたの御手紙、殊に、あなたの日記の記事の補足は、私に非常の喜びを與へました。それは面白いものです。然し、あなたは、善と言ふことが見ない天稟を有する女性の一人であると言ふ決論を引き出しました。

のみならず、私は、チェルトコフ夫人の孤兒院に就いて何にも知りません。(然し、いつでも機會さへあれば、調べることにしませう。)凡てのものが、正確にあなたの御かきになつた通りであることを私は信じたのですが、一方には、望ましきものが何かあると言ふことは可能なことです。こんなことを言つて、あなたの御注意をうながさうと思ふのではないのです。凡てこれは、性格を描寫してゐるのです。

そして、此特徴の爲、私はあなたを餘りに尊敬し過ぎてゐます。のみならず、私はあなたが新しい階級に屬する人であることを認めます、(いゝ意味で。)あなたは活動的で、働かうと思つてゐらつしやる。せめて御手紙によつても、あなたと御知合になつたことを、私は非常に嬉しく思ひます。私は、醫者が此夏、何處へ行けと言ふか知りません。それは、私が引き續き二年間行つたエムスであると、思ひます然し、恐らく、コオカサスのエセントキイかも知れません。後の場合には、どんなに迂廻するやうになつても、歸途、私はカトコフを通りませう。私の今迄行つたことのないあなたの南國をば、するぶん前から私は行つて見たいと思つてゐるのです。それで、神が許して下されば、あなたがその名譽を與へて下さるなら、我々は個人的に御知合となりませう。

あなたは、雜誌「日記」(譯者曰、ドストイエフスキイの刊行せる「一作者の日記」のことなり。)の中で私が自分の作をくだらぬものに費してゐると言ふ御考を報らせて下さつた。私はこちらでも、同じやうにそんなことを言ふのを聞きました。然し、殊に、あなたに言はうとするとは下の通りです、文藝家は詩の外に、自分の表現しやうとする現實をば、最も低い細部まで、(歴史的のもの、及び、現代のもの)知らなければならぬと言ふ決論に、私は到着しました。私の考では、我國には、是に傑出してゐる作家は、一人しかない、即ち、レオン・トルストイ伯である。私が小説家として非常に高く評價してゐるギクトル、ユウゴオ(故チユチエフは、それに就いて、私に食つてかゝつて、私の小説「罪と罰」は、「レ・ミゼラブル」よりも傑れてゐると言ひました。)は、時として、細部の研究に於いて、餘りにだら／＼して

ゐますけれど、私があるいと世の中に全々知られないものとなる程のすばらしい描寫をしました。それです。私は非常に大きい小説を書くことに取りかゝて、明かに、現實の研究ではなく、それはもう知つてゐるので、殊に、現代の細部の研究に没頭しやうと思つたのです。現代の最も重大な問題の一つは私にとつては、例へば、若い時代なのです、また同時に、私はこう豫知してゐるのですが、二十年前から、自分の存在した所から遠ざかつてゐる近代のロシアの家族がそれです。然し、この外に澤山のことがあります。

五十三才になつて、少しでも怠れば、時代遅れになることは雜作もないことです。私は此頃ゴンチヤロフに會ひました。「私は現代のことを凡て知つてゐるか、若しくは、あることを知らうとするのをもう止めたか、」と私が眞心から問ふと、彼は、多くのことを知るのを止めた、私に打ち明けて答へました。(御注意、——それは、我々の間丈の話です。)慥かに、私にも、此の大なる智識者(譯者曰ゴンチヤロフのこと)は、理解してゐるのみならず、最大の博學に至るまで、それを現はすことが出来るでせう。然し、私の質問した特種の意味では、(彼は半分理解したので)慥かに、彼は知らないことはないのです。が、知らうとは欲しないのです。「私の理想は私には、此世で愛してゐる一切のものと同じく尊いのです」と彼は付け加へて貰ひました。「私には残り少なくなつてゐる残年の間、私はそれを離れやうとは思はない、そして、斯う言ふ人々(ネフスキイの廣場を通る群衆を彼は指してゐるのです)を研究することは私には餘りに苦しいのです、何故と言つて、それは私から尊い時日を奪つて了ふのですから……」

クリスチナ・ダニロヴナ、私に解るやうに説いたか如何か知りませんが、然し、主題を完全に知つて、尙あるものを書かうと私は思つて居ります。それですから、暫く研究し、研究して、澤山の印象を失はないが爲に、「一作者の日記」を平行におかうと思つてゐるのです。凡べてこれは、慥かに只理想にすぎないのです。さて、私は、「日記」の形を未だ明かに現はす暇がないことをあなたは御信じになるでせうか。私は今後さうすることに成功するか如何かは解りません。それですから、「日記」は、二年間續いても、不足なものとなるでせう。例へば、私は十乃至十五の題材をば、書き始める時に持つてゐます、(それ以下ではありません。)然し、私に最も氣に入つた題材は、止むなく、うちやつておくのです。それは、餘りに場所を多く取りすぎませう、それを取り扱ふには、餘程の熱心を費さねばなりません、(例へばクロネベルグ事件です。)(譯者曰、一八七六年「作者日記」参照、クロネベルグが自分の娘の七才の少女を虐待せし事件なり、それは雜誌を害するでせう、可なり變化もなく、文章ではなくなるでせう。それで、私は自分の欲しないことを書くことになります。一方では、私は、そうすれば、眞の日記となることと、餘りに子供らしく信じすぎてゐるのです。眞の日記は、殆ど不可能です。公衆にそれをあらはす爲の外には、それを書くことが出来ません。私は事實にぶつかつて、時として、するぶん私の氣にかゝる多くの印象をうけとります、然し、他のことをどうして書くことが出来ませう。それは屢々絶對的に不可能です。例へば、三ヶ月前に、私は至る所から、多くの署名もしくは匿名の手紙を受けとつてゐます。——凡てのものが私に同情してゐます。あるものは、面白く、獨創的に書かれてゐます。のみなら

ず、現在の可能的のあらゆる傾向に就いて書かれてゐるのです。

私にとつて歓迎したいと思ふ此混入してくる此の可能的な傾向に就いて言へば、此手紙から惹き起した印象に就いて、私は論文を書きたいと思つてゐるのです。そののみならず、その場合、最も私に掛念させる考は、我々が共通の觀念を有してゐるのは、何によるかと言ふことです。如何なる傾向に就いても凡て、我々の相合する點は、何であるか。然し、その論文のことを考へると、私は、全然誠實にそれを書くことは不可能だと、突然認めるのです。それで、誠實がないならば、それは書く骨折に償ひするものでせうか。それに、熱烈と言ふこともなくなつて來ます。

二日前の朝、私の所へ、各々、二才位の二人の少女がやつて來ました。彼女達は這入つて來て斯う言ひました、「四旬祭の日から、私達はあなたとお知り合ひになりたく存じて居りました。世間の人達は皆私達を笑ひまして、あなたが會つては下さるまい、會つて下さるとしても、何にも言つては下さるまいと申しました。然し、私達は運を試さうと決心しました、我達は、斯う斯うして參つたのでございませう。」私の妻が始め彼女達に引見しました。その次に私は行きました。彼女達は醫學校の學生であること、その學校には、約五百人も女學生が居ること、「彼女達は、高等教育をうけ、有用な人物となる爲に學校に這入つたのです。」と言ひました。私は斯う言ふ少女のタイプに未だ會つたことはありませんでした。(古い虚無主義者のことは澤山知つてゐます。個人的に知つてもゐるし、研究もしました。)私は此少女と話した二時間程いゝ時を過したことはありませんでした。何と言ふ單純さ、何と言ふ自然さでせ

う。何と言ふ感情の爽かさでせう。魂と心との何と言ふ純潔さでせう。最も眞實な眞面目さ、最も眞誠な喜び！ ですが、彼女によつて、斯様な人々の他の多くを知ることが出来た。私は自白しますが、その印象は非常に強く、輝いたものでありました。然し、どうそれを書いたらいいでせう。青春に對する感情の凡ての誠、凡ての喜を以てしても、それは不可能です。それにそれは殆ど個人的です。然し、その時、私はどんな印象を書いたらいいでせう。

昨日、私がきいたのですが、一人の青年——まだ學問をしてゐるもので、(何處でかは言ふことは出来ません)人が私に教へたのです——が、友達の家へ行つて、此家の子供の家庭教師の室に這入り、机に發賣禁止の本のあるのを見つて、それをその家の主人の所に持つて行つた所が、主人は直ぐに家庭教師を戸から追ひ拂つて了ひました。他の家で、此青年に、彼の卑怯の振舞をしたことを注意した所が、彼はそれを理解しませんでした。これは、メタルをやるべき行爲の反對です。さて、私はどうして、これを物語ることが出来ませう。それは、個人的です、けれども、特性のあるのは、彼の個性ではありませぬ。人の繰り返して言ふ所によれば、殊に、それは、彼の悟ることの出来なかつた所のもの、それに就いて、何か面白いことを言ふことの出来るその思想と意見の *Impressus* (譯者曰、發展と言ふ意のラテン語)にあるのです。

然し、私はお喋りしてゐます。のみならず私は全く手紙の術を忘れてゐます。私の書き方を許して下さい、私は風邪をひいてゐるのです。私は頭痛がします、今日は目が痛いのです。そして、手紙を見ず

に書いてゐるのです。

あなたと握手するのを許して下さい。あなたの最も深く尊敬せられる人々の中に私を加へらるゝの光榮を許して下さい。

御挨拶を申し上げるのを凡てうけ入れて下さいまし。あなたの下部なる

フィオドル・ドストイエフスキイ

コフネル氏に

一八七七年二月十四日 サン・ペテルスブルグにて。

非常に尊敬するコフネル様

私は長い間御返事をせずに居りました、何故でも、私は病氣なのですから、そして、私は、毎月の著作を書くに非常な骨折をしてゐるのです。のみならず、私は、毎月數十通の手紙に返事をしなければなりません。おまけに、私には家族があります、用事があります、なすべき義務があります。全く、私は生きてゐる暇がないのです、長い手紙を書くことは不可能です。殊にあなたに對してはです。

あなたの御送り下つた始めてのお手紙よりも、利巧なものを私は殆どよんだことがありません。(第二のお手紙も特別です)あなたが自ら仰つたこと凡てを、私は全く信じます。あなたは、非常に明瞭に、

解かるやうに(少くとも私に對しては)書き現はされたので、あなたの事件を詳細に知らない私でも、今は、あなたと同様にそれを見てゐる程です。

あなたは私の小説を批評して居られる。そのことに就いては、私はあなたに何にも申し上げるものはありません。然し、「白痴」を、最もいゝ作となすつたことを嬉しく思ひます。私は、かう言ふ批評を、少くとも、五十度、聞いたことを、あなたは御想像出来ますか。本は毎年賣れます、毎年益々よく賣れます。今、私は「白痴」のことを言ふのは、私の最傑作として、そのことを言つて下さる凡ての人々が、私の心をうち私を非常に喜ばすその智識の組織に、特別なあるものを持つて居られるからです。あなたの精神の組織が、同様であるならば、私にとつて、非常にいゝことです。いゝですか、あなたが、眞誠にさう仰るのならです。然し、それが眞誠でなかつたならば……

こんな話は止ませう。あなたが、がっかりなさらないことを私は望みます。あなたは文學にたづさはらうと始められる、それはいゝ兆候です。あれを何處かにのせると言ふことに就いては、(譯者曰、コフネルが二つの原稿をドストイェフスキに頼みしなり。)私はあなたにかう言ふ外はありません。私は只、ネクラソフか、サルチコフに話すことが出来ます、そして、それをよまない中に、間違なくさう話させう。然し、その場合には、成功することは、餘りあてにはなりません。彼らが、私に對して、如何に好意をもつてゐるにしても、彼らは既に、私の推薦し自分で編輯局に持つて行つたある作物を拒絶しました。彼らは、その包みをほくくこともしないで、此人が何を書かうとも、少しも發表することは

出来ない、雑誌は自分の旗施をもつてゐるのだからと言ふ理由で、拒絶したので。そこで、私は立ち去りました。それでも、私の亡き兄がヴレミヤ誌を發行した時であつたならば、あなたの喜劇若しくは短篇が雑誌の傾向にあつてゐるなら、(あなたが入獄してゐるとしても)吃度のせられたであらうと言ふ理由を以て、あなたのことを話してみませう。

御注意——あなたが銀行でなすつた行爲を、あなたは少しも後悔してゐないと仰つたあなたの手紙の二行の文句を、私は自分の心から認めるとは出来ません。理性の傑れた演譯や、一切の偶然なる事情以上の立派なものが何かあります。そして、凡ての人は、それに従はねばなりません。(即ち、旗のやうなあるものです。)恐らく私の不謹慎な注意を眞誠を以てしてあなたを傷けない丈、あなたは十分に總明であられることとせうと思ひます。第一、私はあなたより善良なものではありません、何よりも善いものではないのです。(そして、かういつても少しも、偽りの謙遜ではありません、それに、何の爲にそんなことをしませう。)そして、第二に、私が心のなかで、あなたが罪がないとしても、(私があなたに私を罪がないとして賞はうとするやうに、)あなたが御自分で罪がないとされるより、私があなたを罪がないとした方が、いつもいゝのです。それははつきりとしないうちに私に思はれます。

(御注意、——時に、少し同じやうなことがあります。キリスト教徒、即ち、完全な崇高な理想的なキリスト教徒は、『私は、私の最も若い同胞と、凡ての我財産を分ち、彼らの凡てのものに使へねばならぬ、』とひいます。然し、共産主義者は、『さうだ、お前は、最も若い哀れな自分とお前の全財産を分たな

ければならぬ、そして、お前は、私に使へねばならぬ、』といふ。キリスト教徒のいふのは尤で、共産主義者のいふのは間違つてゐます。それに、今は、あなたは、恐らく私があなたに何をいはんと欲するかは御解りにならないかも知れません。)

此度は、ユダヤ人のことをいひます。私が上にいつたやうに、斯様な問題に就いて、殊にあなたと議論することは出来ません。あなたは非常に聰明であるから、百通の手紙でも、我々はかゝる問題を解決することは出来ない、只、我々は疲れるのみであります。私はかゝる種類の注意を、他のユダヤ人からも受けとつたことを、あなたに申し上げませう。殊に、最近、苦い非難を以て、署名して来たユダヤ人の理想的に立派な手紙をうけとりました。ユダヤ人のかゝる非難に就いて、私の「日記」の二月號に、數行書かうと思ひます。(まだそれを書き始めては居りません、何故といつて、私は最近の癩癩の發作後、尙病んで居りますから。)今、私はあなたに、私が全然ユダヤ人の敵ではないことを申し上げませう。そして、今迄も決して敵ではなかつたのです。然し、あなたの仰るやうに、四十世紀以來の彼らの存在は、此人程の非常に偉大な生活力を有することを證明するもので、彼らの全歴史中、いろ／＼の *status in statu* の中に、自らあてはめなかつたことはない筈です。最も力強い *status in statu* は、疑ひなく、我がロシアのユダヤ人に存在してゐるのです。然し、斯様であつたとしても、如何して、彼らはせめて一部分なりと、國家の根本、ロシア民族と不和にならないやうにすることは出来ませう。あなたは、ユダヤ人の智識のあることをいはれますが、あなた御自分でも、一つの智識です、そして、まあ……

然し、こんなことは止めませう。問題は餘り長くなります。私はユダヤ人の敵ではありません。

男女兩性のユダヤ人の友達があり、彼らは、いろんなことを私に相談しに來ます。そして、彼らは、「一昨者の日記」をよんでゐるのです。彼らは、凡てのユダヤ人と同じく、ユダヤ教に就いては感じ易いにも係らず、私の敵ではありません。然し、彼らは、私に會ひにも來ます。

コルンロフの事件に就いて、あなたは何にも御知りにならないといふことを、只私は御注意します。従つてあなたは、それを判断する権利はありません。然し、まあ、あなたは、何たる學生でせう。人間の心やその行爲を知るに、かやうなやり方を以てしては、あなたは物質的享樂に陥るの外はありません……然し、あなたの御手紙をよんでも、私は少しもあなたが解りません。あなたの御手紙(第一の)は、全く魅力あるものでした。私はあなたが全く眞實の人であることを、心から信ぜんと欲するものです。然し、あなたがそうでないとしても、私には同じことです。何故と言つて、此場合、眞實の缺乏は、かゝる流儀には、非常に複雑した非常に深いものがありますから。私が全く眞誠をもつて、あなたの御延ばしになつた手と握手するものであることを信じて下さい。然し、あなたの精神を向上し、あなたの理想を形づくつて下さい。何故と言つて、あなたは、今迄、非常にそれを求めてゐられたのですから。そうではないのですか。

私の深い尊敬を以て。あなたの

ゲラシモフ嬢に

一八七七年三月七日 サン・ペテルスブルグにて。

非常に尊敬するゲラシモフ嬢よ。

あなたの御手紙は私を苦しめました、何故と言つて、するぶん以前から、私が御返事を差し上げるこ
とが出来ませんでしたから。私のことをどう考へてゐらつしやるでせう。そして、あなたの苦しい精神
状態にあつては、恐らく、私の沈黙を侮辱とおとりになるでせう。

私が荷の勝ちすぎる仕事をしてゐることを御承知下さい。私の「日記」の爲すべき急ぎの仕事の外
に、私は手紙をもて餘す程受けとつてゐるのです。あなたが御書きになつたやうな手紙は、毎日、澤山
來ます(全くです)そして、二行もそれに返事をする事出来ません。私は癲癇の發作を三度こらへまし
た。——そんな事は、屢々私には起つては來ませんでした。然し、發作の時、二三日は、働くことも、
書くことも、讀むことも出来ません。何故といつて、私は精神も身體も、へとくになつてゐるのです
それですから、あなたの御知りになつた今は、非常に長く御返事しなかつたことを許して頂きたく御願
ひします。

あなたの仰るやうに、あなたの御手紙が、つまらぬとか、馬鹿々々しいとか、私はどんな場合にも思

ふことは出来ません。重大なことは、それが、今、一般的の傾向であつて、苦しんでゐる少女は澤山あ
るのです。然し、私はこのことに就いて、あなたに澤山書きはしないでせう。私は只、一般に、此問題
に就いて、殊に、比較的、あなたに、根本的の私の考をのべることにしませう。あなたが氣をおちつけ
て、父親の家に止り、何か利巧な仕事に従事して(教育に關するやうな何か尋問のことなど)居られる
ことは、それは苦痛ではなふことと言ふことになるやうに私に思はれます。何故と言つて、あなたは、耳に
お入れにならないのでせうから。然し、何故、あなたは急がれるのですか、せいておやりになるのです
か。あなたはもつと有益な人間になりたいと御急ぎになる。然し、あなたのやうな精神的の熱烈をもつ
てしては、(それが眞誠であると想像して)實際、急がずにも、何處でといふことは解りませんが、その
教育に正しく専心して、看護婦とか、産婆とか、女醫とかいふ下等な暗らい仕事よりも、百倍も有益な
活動に取りかゝることが出来るでせう。あなたは、一生懸命で、醫學の課程をおさめたいと御望みにな
る。私は全く、そんなものをおやりにならないことを御忠告します。そんなもので、最少の教育も受け
ることも出来ません。のみならず、そこには、もつと悪るいものがあるのです。あなたが、何處か、産
婆や女醫におなりになるとしても、何でもいゝのですが、あなたが絶対に撰ばうとされるかゝる、専門
のことは、後でやつてもいゝでせう。今は、外の目的に従ひ、あなたの高等教育に専心なすつた方がい
ゝではないでせうか。我國の凡ての専門家(大學の教授でも)御覽なさい、彼らの弱點は何であるか彼
が、その仕事や天分に何によつて害をしてゐるか(有益とはならず)如何となれば、我國の専門家の

多くは、非常に教育のない人々です。歐洲ではさうではありません、そこには、ハンボルトや、クロオド・ベルナルや、其他、一般的の考を持つた人々は、しつかりして教育と智識とをもつて、只、自分の専門のことばかりやつてゐないことを御認めになるでせう。我國には、非常に能才のある人がゐます。例へば、セエノフですが、彼は、實際、教育のない人で、自分の専門の外は、少ししか物事を知りません。私は自分の敵（哲學）には、何らの觀念も持つてゐません。そして、私は、その科學的演譯法を以て、有益となるよりも、寧ろ有害となつてゐます。男女の學生の多くは、全く何らの教育もありません。彼らは、人類に、如何なる善をなすことが出来るでせう。それは、大至急に、月給のとれる地位を占める外はないのです。

こちらの、ペテルスブルグのヴシリイ島、古典學校の一つでは、勢力ある人の助力で、~~夫々の爲めに~~大學の課程を加へました。今は、多くの勢力家が、常に、絶えず、かゝる課程をおさめる生徒に、出来る文、ある権利を政府が與へんことを求むるに専心してゐます、試験をうけた後、人々は、大學らしいもの、即ち、それから直ぐに、ある境遇、ある地位を占める可能性を得んとする人々のやうな権利をです。全く、婦人の爲に、教育を組み立て、ある権利を享受するといふことに専心してゐるある勢力ある夫人に、私はあなたのことを話しました。彼女は非常に熱烈に、私の頼みを歓迎しました、そして、あなたがサン・ペテルスブルグにお出でになるならば、同じやうに、少しは時日を待たなければならぬけれど、短時日の中に、此課程をうけることをあなたに許可すると私に約束しました。こちらへらつ

しやれば、あなたの教育を擴大にし、向上せしめるといふことを信じて下さい。かゝる課程の保護者の専心する権利を得らるゝことに、恐らくあなたは到達せられるでせう。そこで、あなたは尋問をおえらびになることが出来ます。若しくは、試験的、只地位を得られることも出来ませう。あなたの御手紙では、あなたの家庭に於ける御境遇を知ることが出来ません。『父の家から逃ける』といふ文句を、どう解釋しなければならぬか解りません。何故といつて、あなたの御父さんが、何故同意なされないのか、ヴシリイ島の大學科に、あなたの教育を繼續することを御許しにならないのか、私は解りませんから。それは醫學校ではありません、産婆の職業ではありません、産婆と言ふことは、私も娘の爲に、びつくりすると同様、お父さんを、全く當然に、びつくりさせるでせう。（何故と言つて、私は娘の爲に高等教育及び、人類に必要な活動を望んでゐます、劣等なことは欲しません。）のみならず、極端の場合には、お父さんは、此課程の報告をおとりになることも出来るでせう。それは、正しく、此保護者の一人の家から、私のあなたの爲に頼んだ（立派な心をもつた寛大な）此夫人からです。それは、アンナ・バヴロヴナ・フィロゾフオグといつて、秘書官フィロソフオフの夫人です。少くとも、私の方では、此夫人の完全な保護をあなたに御約束することが出来ます。彼女は、あらゆる青年男女に、深く、心から同情をよせてゐられるのです。教育をうけやうと求めらる婦人には殊にさうです。

あなたの性格と、物の見方によつてして、商人と結婚することは、慥かに不可能です。然し、よき妻となり、殊によき母となることは、婦人にとつて最高の目的です。あなたの御話しになつた青年に就い

て、私は何にもあなたに言ふことは出来ないとは、あなた自から御解りでせう。あなたは彼を卑怯者であるとして御よびになる。然し、彼があなたは斯様に助け、萬事あなたを助けんと心がけてゐるのなら、彼は卑怯者ではありません。それに、私は何にも知らないのです。重大なことは、彼が善良であり、寛大であることです。のみならず、彼が真に善良で寛大であるならば、あなたが彼より劣つてゐること、彼があなたに劣つてゐないことを見出されるのは、あなたであるかも知れません。それに、あなたが彼を愛してゐないと御聞きになる。そして、それが一切です。如何なる目的の爲にも、彼の生涯を悪くしてはいけません。あなたが愛してゐないならば、結婚してはいけません。あなたが御望みになるなら、尙、下に書いてよこして下さい。此夫人（彼女の名は秘密にしなければなりません。それで、必要の時は、あなたの御父さんに仰つてもいゝのです。）は、あなたをまた助けませう。私の手紙が、あなたの御期待に反いてゐるならば、御許して下さい。然し、あなたは私に餘り多くの質問をされるので、それに答へることは容易ではないのです。

全くあなたのものなる

エス・ドストイエフスキ

オチミドフに

一八七八年二月 ヘルスブルグにて。

非常に善良な親愛なニコラス・ルウキツチ、

第一、あなたに御返事するのが遅くなつたことを御許して下さい。その原因は、病氣やいろいろの心配からです。

第二、私はあなたに、何を答へたらいいでせう。あなたの激しい、いつまでも續く質問に、どんな御解答を差し上げたらいゝでせう。そして、かゝる事件を二行で披露することが出来ませんか。我々が一所に數時間話したならば、別物です、それでも、恐らく、何物もそこから引き出すことは出来ないでせう。不信仰家は、言葉や推理でもつて、改宗することは非常に困難です。使徒ボオルの書簡を全部注意してよみ合ひでもした方がよくはないでせうか。そこには信仰に就いて多く語られて居り、其以上いふことは出来ません。バイブル全部をよむことは、あなたにとつては、いゝことです。此本は、全部、非常な印象を與へます。人類に、斯様な本は他に存在してゐない。また、存在する筈のないと云ふ結論をあなたは下されるでせう。あなたが信ずるか、否かは、此生する印象によるのです。

そこには、何ら他の喻へはありません。私は只一語あなたに申します、地上にあつて、凡ての有機體は、生きんが爲め存在するのであつて、自滅する爲に存在するものではありません。科學は既に斯く定義し、その法則は、此言葉をうち立てる爲に、既に十分正確なものです。人類はその全體に於いて、勿論一個の有機體に外なりません。此有機體は生存の法則を有し、此法則を求めるのが人間の現性です。

さて、神もないもの、靈魂の不滅もないものと想像してごらん下さい。(靈魂の不滅と神とは、同じこととです、常に同じ觀念です。)それでは、地上の生命がなくなれば何にもなくなるなら、何故、私には、よく生きなければならぬのですか、よく行動しなければならぬのですか。不滅と言ふことなくしては、私の目的は、死ぬ時に達すればいいので、他のことは駄目になつていいのです。斯様であつたならば、(法律にふれないやうな熱練と機智とに自信があれば、)何故、隣人を殺し、掠め盗んではいけないのでせう、若しくは、只、單純に、自分の腹のこのみ考へて、他人のもので生活して行つては、何故いけないのでせう。私が死ぬとすれば、凡てのものが死ぬことになりませう。何物も残らぬことになりませう。斯うして、有機體人類のみは、一般の公理にはあてはまりません。自己を維持し、増加する爲に生きる代りに、自滅する爲の外は生きてゐないことになりませう。凡ての人員が、互に仇同志であつたならば、それはどんな社會となりませうか。それは想像も出ない程の混雜となりませう。尙、凡てのものを自覺してゐる私の自我のことを附け加へて申しませう。此自我が凡てのことを自覺してゐるならば、即ち、全宇宙を自覺してゐるならば、その時、此自我は凡てのものに劣ることゝなります。それは、己れを凡てのもの以外に、凡てのもの以上に於いて、それを批判し、それを知るのです。然し、斯様な場合に、私の自我は、地上の公理、地球の法則に服しないのみならず、その法則より優れてゐるのです。それでは、此法則は何處にあるのですか。凡てのものが制限せられ、痕跡も復活もなく、死ぬ此地上にあるのではありません。こゝに、靈魂の不滅と言ふ暗示がないのでせうか。この暗示がなかつたならば、

ニコラス・ルウキツチ、あなたはそれで、不安ではないでせうか、あなたは手を書いたり、自ら求めたりするのではないでせうか。それで、あなたは、あなたの自我と事をきめることは出来ません。自ら屬してゐる地球とは違つた他のものを更に求めるのです。

さて、いくら書いても駄目です、私にも出て來はしません。

あなたの不安を見捨ててはいけません。お求めなさい、恐らくあなたは見つけるでせう。

あなたの下部にして眞實の友

エフ・ドストイェフスキイ

モスコウの學生に

一八七八年四月十八日 サン・マテルスアルグにて。

私に手紙を下さつた非常に尊敬する學生諸氏、

あなた達に御返事をせずに斯くも長く打ち過ぎたことを御許し下さい。私の實際の病氣の外に、尙、私を遅延せしめた事情があります。私は公然と、あなた達に新聞でもつて、御答へしやうと欲しました。私し、突然それは、私に關係のないいろいろな事情で、不可能であることが解りました。少くとも完全を期して御答へすることは不可能でした。第二、手紙によつてあなた達に御答へすることに就いては、ど

う御返事したらいかと考へました。あなた達の御質問は、凡てのものを含んでゐます。絶対に、ロシアの近代の内部生活の全部を含んでゐます。斯うしては、全一冊の書を書かねばならぬでせう。それは——信仰の宣言ではありませんか。

とう／＼、あなた達を極度までに不可解に思はせるといふ危険を冒して、私は此小さい手紙を書くことに決心しました。其は私にとつて非常に不愉快なことになりませう。

あなた達は斯う御書きになりました。『我々學生は、どうして罪があるのですか、社會及び我々は、此事件（譯者曰、一八七八年四月三日、學生は、キエフにて同窓の友の逮捕されたるに示威運動をして、オコトニ市にて、肉屋に襲はれ、大騷擾を演じたるなり。）から、如何なる推理を引き出すことが出来ませうか、此問題を解決することは、我々にとつて最大急務です。』と。

それから、非常に微細に、正確に、あなた達は、現代のロシア新聞紙が、青年に對する態度の根本的特徴を御觀察になりました。

我國の新聞には、明かに、『豫めこしらへた寛容的な（あなた達に對して）辯解の調子』が行はれて居ります。それは非常に正確です。それは正しく豫めこさへてゐるのです。如何なる場合にも、極端迄に官僚的な疲れ切つたある保護者に從つて、前もつて準備してゐるのです。

そして、更に、あなた達はお書きになつた、我々から何物も期待しないで、『野蠻なる人民』と打ち消し難い批判を發して背中を向けて了ふ是らの人々からは、明かに、我々も何物も期待しないものである』

と。

それは全く正しいのです。人々は明かに背中をむけてゐます。そして、（少くとも大多數は）全然、あなた達のことを眼中におきません。然し、青年が民衆とかけ離れてゐる。（就中、このことです。）即ち、今、社會から遠ざかつてゐると言ふ考でもつて、苦しんでゐる人々はゐるのです。新聞社や社會にそう言ふ人々は可なり澤山あります。何故と言つて、それが斯う言ふ風だからです。青年は外人の報告に從へば、夢想的に抽象的に生きてゐて、ロシアに關する何物を知らうとは思はず、自ら、それを教へやうとしてゐるのです。それから、今、疑ひもなく、青年が、全く外的な政治を指揮する黨派の手に落ちてゐます。その黨派は何ら青年には關心せず、その外的特種的な目的の爲に、材料として、バンジュールの羊の群れとして、（譯者曰、佛國文學者ラブレエの作「パンタグリユエル」にある挿話にして、バンジュールが復讐の爲、羊を仇敵より一匹買ひ、それを海に投げ入れたる所、他の羊群皆之に従ひ海に入りて死し、仇敵たりしも後を追ひて海に入れることを描く。）青年を用ゐてゐるのです。諸君、それを否定しやうと思つてはいけません。全くさうなのです。

諸君、あなたはおき／＼になる。『何故我々は罪があるであらうか。』その御返事はかうです、私の考へる所によると、あなた達は、何ら罪があるのではありません。あなた達は、今、あなた達の見捨てた所の『あらゆる方面から虚偽』である所の此同じ社會の子供にすぎません。然し、此會から自れを引きぬいてそれを見捨て、我が學生は、民衆に行かうとしません、何處か外國へ「西歐主義」の中へ行かうとして

ります。今迄決して存在したたともない宇宙人の抽象界へ行かうとしてゐます。かくして、彼は民衆と不和になり、己れの身を引き抜かれた社會の眞の子供として、民衆を輕視し、民衆を誤解してゐるのです。然し、我々の教ひが見出されるのは、民衆の中にです。(然し、それは、餘り長い諸題です……)然し、民衆と不和になることは、嚴密にいつて、青年を咎むべきではありません。それは、よく考へて今迄民衆と接近して生活しなかつた中は、何を爲すことが出来たでせうか。

けれども、最も悪いことはかうです、民衆は、ロシアの智識ある青年と、既に不和になつたことを認め、注意したことです。そして、尙悪るいことは、民衆が、遠ざからんと欲する青年を學生と云ふ名で呼んでゐることです。民衆は、久しい前から、一八六〇年から、彼らと遠ざかつてゐたのです。それから、民衆の中の此プロバガンダは、民衆に、嫌惡の情を吹き込んだことです。「若い紳士」と民衆は言ひます。「私は此名前を知つてゐる、彼が彼らを斯様に呼ぶことを、私はあなたに保證する。」然し、實際には、民衆の誤謬があるのです。何故といつて、我國、我がロシア生活には、今日のやうに、青年大多數が、非常に眞誠で、心が鈍くて、眞理に渴望して、眞理及び眞理の言葉の爲には、一切のもの、生命その物さへも、喜んで犠牲にするといふやうな時代は、未だ會てありませんでした。(ロシアが、最終點に踏みとまつて、深淵の上に、ぐらつてゐるのを豫知したかのやうに。)實際、それはロシアの大希望です。私は久しい前から、もうそれを感じてゐました。久しい前から、それを書いてゐました。そして、突として、何が起るのですか。青年の渴望する此眞理の言葉は、何處かは知らぬが、非常の場所に、青

年は探し求めてゐます、それは、民衆や土地の中ではありません。(そして、又更らに、彼を世の中に出した西歐主義のロシア人の腐敗した社會と一致してゐるのです。)そして、終りに、決定的の時期となつて、青年も社會も、もう民衆を理解せず、反つて、信仰のやうなその基礎を、深く蔑視するのです。彼らは民衆に向つてゆくが、——それは、そこに學ぶ爲ではなく、教へる爲で、傲慢と輕蔑とをもつて彼を教へる爲なのです——純粹に貴族的な娛樂であつて、殿様の遊戯です。「是らの若い紳士」と民衆はいひます。そして、それは尤もです。不思議です。至る所で、いつも、全世界の中で、民主主義者は、民衆に結びついてゐるが、我國では、一人、ロシアの智識ある民主主義者は、民衆に逆らつて、貴族に結びついてゐるのです。私たちは、「善をなす爲に、」民衆に行きます、そして、その服裝やその基礎を蔑視します。輕蔑は、愛に導かれるものではありません。

昨冬、カザンの事件に於いて、——サン・ペテルスブルグのカザンの聖母マリア大寺院の前で起つた政治的大示威運動のことです、——一群の青年が、有名な寺院内で、けしからぬことをして、煙草をふかしたり、騷擾を挑發しました。「おきよなさい」と、私はカザンの是らの人々にいつたでせう。(そして私はある人の面前で、さうもういひました。『あなた達は神を信じて居られません。それはあなたのことですが、然し、あなたは寺院を辱かして何故民衆を蔑侮するのですか。』そして、民衆は、もう一度彼らと呼んだのです。『若き紳士よ』尙惡るいことには、彼らをば、その中に多くのユダヤ人らしいものや、アルメニヤ人が居つたけれども、『學生』といふ名前で指示したのです。(示威運動は、それが證明し

て居るやうに、政治的で、外面的です。)斯うして、ザスリツチ事件の後、(譯者曰、エラ・ザスリツチは有名なる革命家にして、政治犯として捕へられ、倍審によりて釋放せられたり。)民衆は、更らに、町の中にゐるピストル所持者を、『學生』と呼んでゐます。疑ひなく、そこには學生も亦ゐるけれども、それは悪いことです。民衆がさう注意し、憎悪や不和が現はれることは、悪いことです。諸君、今、あなた達御自分も、一切の智識ある新聞と一致してゐるモスコウの民衆を、肉屋と呼んで居られる。それは何といふことですか。肉屋は民衆の一部ではないのですか。それは民衆です。眞の民衆です、ミニン(譯者曰、一六一〇——一三年の王位空虛の國民的英雄なり。)も亦肉屋でありました。忿怒は、民衆が示威運動をする方法にのみ目覺めるものなのです。然し、諸君、民衆が怒つたならば、常に斯く示威運動をすることを御存知ですか。彼はしつけが悪いのです、百姓です、それは、所謂、誤解の解決ですが、もう古くからあるもので、民衆と、社會(人々の注意しなかつたもの)、寧ろ、決心すべき最も熱烈、最も迅速なる國家、即ち、青年との間に、形づくられたる誤解の解決です。事件は餘りよく行きませんでした、必要な丈の規律正しさがありませんでした。何故といつて、拳骨では何物も證明することが出来ないものです。然し、全世界に於いて、民衆に於ては、いつも至る所斯うなのであります。田舎に於いては、イギリスの民衆は、屢々、敵に對して拳骨を以て行動しました、そして、フランス革命の間民衆は、革命の進行中、歡喜におめき叫んで、斷頭臺の前で舞踏をしました。いゝですか、是ら凡てのものは、忌むべきものです。然し、事實は、民衆(民衆、だつて一人肉屋のとのみ言ふのではありません

種んな言葉で自ら慰めるのは無益ですが、青年に反抗して、既に、學生と叫んだことにあるのです。一方では、新聞や、社會や、青年達が、より集つて、民衆を誤解し、それにモツブだ——民衆ではないとしたことは、不幸なことです。(また、意味のあることです。)

諸君、私の言葉に、あなた達と不一致のことがあるとしても、御怒りにならない方がいゝのです。その様では、するぶん悲しいのです。腐敗した社會に於いて、虚偽はあらゆる方面から行はれるものです。社會は自ら支持することが出来ません。強く力ある民衆の外はありません。然し、二年前から、民衆との不調和は大なるものです。我國の感傷主義者達は、民衆を奴隸状態から解放した時に、民衆はすぐに、彼らの西歐主義的虚偽の中に、彼らの言ふやうな教育に這入るものと、感激して信じてゐました。然し、民衆は、獨立不羈となつてゐました。殊に、ロシアの生活の上層階級の虚偽を自覺し始めました。最近二年間の事件は、それをよく明かにし、よく確かめてゐました。然し、民衆はその敵の外に、又、その味方も明かにしました。悲しむべき忌まはしき事實は、生じました。眞理を欲する眞面目な非常に正直な青年が、民衆の悲惨を和けんが爲に、民衆の中に行きました。それから如何か。民衆は彼らを追ひ拂ひました、そして、その正直な努力を認めないので、何故と言つて、此青年達は、民衆を、あるがまゝでないものとして取つてゐるからです。青年は、民衆の根本的原則を憎み、輕蔑して、野蠻な馬鹿々々しいやうに思はれる救済を持つてくるのです。

こちらのベテルスブルグでは、我々は、何かは知らぬが或物をもつてゐます。青年の間には、ピスト

ルをうてと説教してゐるものがあり、そして、政府があれを恐がるものと信じてゐます。民衆は、常にそれを嫌ひ、彼を念頭におきません、そして、民衆が少くとも彼を恐れてゐない決して頭を狂はせることのないことを、注意して居りません。然し、他の衝突が生じたならば？ 諸君、我々は悲しむべき時代に生活してゐるのです。

諸君、私は出来丈のことをあなた達に書きました。あなた達の御質問に、完全ではなくとも、少くとも直截にお答へしました。私の考では、學生に罪があるのではありません。反つて、青年は、今のやうに、眞面目で正直になつたことは、決してありませんでした。(それは疎かにすべき事ではありません、賞讃すべき偉大な歴史的事實です。)然し、不幸なことは、青年が、我國の歴史の二世紀の虚偽をもつてゐることです。それで、青年は、全く問題を研究する能力はありません。彼らが、此事件に關心をしてゐる(そして、辱かしめられたる)黨派となつた丈それ丈、青年を悪く言ふことは不可能です。然し、例へ罪がないとしても、今からよき道を見出した人ではない、それらの多くの人々に祝福あれ。周囲との不一致は、例へば、社會主義的教育によつて、未來の社會と現代の社會との不和よりも、一層強いものとなるに相違ありません。全く強いものとなるのです、何故となれば、民衆に行き、それを止むるには殊に、民衆を蔑輕する習慣を捨てなければなりません。そして、民衆との接觸に就いては、我社會の上層階級には殆ど不可能のことです。第一に、例へば、神を信じなければなりません。そして、それは我國の西歐主義には、全然不可能のことです。(例へ、歐洲に神を信するものがあるとしても。)

諸君、あなた達に御挨拶申上げます、そして、御許しになれば、握手をしませう。あなたが私に大いなる愉快を與へて下さらうと思召すならば、後生ですから、私を先生や、傲慢な説教者と思なさないで下さい。あなた達は、私の魂や良心の眞實を言ふことを要求された。そして、私は考へてゐる通り、考へることの可能な通り、眞實を言つたのです。何故と言つて、人間は、自分の力や能力の許すこと以上のことは、なすことが出来ませんから。

全然あなた達の

フィオドル・ドストイエフスキ

X……………夫人に

一八七九年七月十一日 ストラヤ・ルサにて。

親愛な尊敬する忘れ難き×××、あなたの親しい御手紙をうけとつて、正しく一ヶ月にもなりますが、私はまだ御返事することが出来ませんでした。——悪く言はないで下さい。あなたは、無條件に限なく善良で、あなたの利巧な傑れた御心を以てして、悪く言はれやうとするのですか。私は、ルサで、毎日、絶え難く苦しい精神状態にあるのです。そして、あなたと御話する暇があつたにした所が、屢々非常に重苦しい氣分になつてゐるので、ペンをとる度毎に、手紙をのばして了ふのです。重大なこと

は、私の健康状態が、悪くなり、始終我々が病氣であることです。——第一、私の子供が、チブス性の熱を起しました、それから、二人共百日咳にかかりました。時候はひどいもので、やり切れないのです。朝から晩まで、夜中までも、どしやぶりに雨が降つてゐます。寒むくて、じめ／＼して、風邪を引いてゐるのです。此頃毎月、雨の降らない日は、三日とありません。そして、太陽は、殆ど、一日丈姿を見せたばかりです。かゝる精神状態で、私は終日書いてゐます。私は夜中も働いてゐます、百年も経つた樹を裂く様やなうなる音に耳を傾けてゐました。私はほんの僅か書きました、それから、久しい前から、私が進めば進む程、仕事が難かしくなるのに氣付きました。従つて、常に、慰めをうけることの出来ない考、陰鬱な考が起つてゐて、こんな氣分でない時に、あなたと話したいと思つたのでした。

我々は、(妻と私)あなたがコオカサスへ行かうと思つてゐらつしやることを非常に喜びました。第一あなたは、いゝ醫者にうまくおかゝりになると、治療の後は、疑もない全快に向はれると私は全く信じてゐます。(おゝ、醫者の名士にかゝることは謹みなさい。彼らは、皆、自惚と傲慢とのほせてゐます。彼らはあなたを殺すでせう。)常に、中位の評價のある醫者、あるつゝましいドイツ人を御撰びなさい。何故と言つて、醫者の資格としては、ドイツ人はロシア人より傑れてゐることを、私は誓ひます、スラヴ主義者たる私が、それをあなたに斷言します。それから、コオカサスのやうな特徴のある場所に、長い旅行をすることは、あなたを非常に慰さめ、倦怠的に單調な(外見は非常に特徴がありますけれど)ベチルスブルグの我々の矛盾や、つまらぬことを、あなたから取り除いてくれるでせう。

あなたが、精神の力で、最近の過去を御忘れになり、自然や、新しい場所の印象に、直接身をお任せになるならば、あなたは休息が出来ませう。それから、八月に、田舎のあなたの御子さん達の傍にいらつしやるのです。あなたがさうなすつたら、どんなにいゝこととせう。それらは、最も高い意味で、如何に生活を人間化するでせう。子供達は——それは苦痛ですが、必要な苦痛です、それがなければ、人生に目的がありません。そして、西歐の社會主義者が、凡て孤兒院を説くのを考へると、私はすぐれた心をもつた結婚した人で、小兒のない人々を知つてゐます。さて、斯様な智識をもつて、斯様な心をもつて、彼らには常に何物か缺けてゐるのです。そして、(私は誓つて言ひますが)、人生の優れた難關や疑問に於いて、喧ましい様子を見せません。

あなたが愛し、あなたが全生命と全努力とを犠牲になすつた不謹慎なことや、人間の殘酷なことに就いて、あなたは苦がい文句をおかきになつた。(人はあなたにさう言ふことが出来ます。)然し、驚いても悲しんでもいけません。決して人から何物も期待してはいけません。私がいばつた先生のやうな様子をするのを悪く思はないで下さい。私も亦、多くの人々によつて傷けられました。そして、屢々、全く無罪でした。他の人々も亦、私の性質で辱められました。(實際です、何故と言ふと、私は彼らの要求に従つて、彼らに打ち明けて喋つたからです。)さて、私は、慥かに、あなた以上に困り、あなた以上に怒つたのでした。實際、あなたが、いろ／＼の人々に就いてお苦しみになつた以上に苦しむことは、めつたにありません。——私はその證人です。幾度、私は、あなたの名前が、いろ／＼の人々から非難を蒙

るのを聞いたことでせう。然し、こゝに、常にいゝことがあります。觀賞し、理解し、あなたに慥かに同情を與へることを知る人々が少しは常にあることを、知つて下さい。あなたの爲をはかり、あなたの作物を理解し、その爲に只、あなたを愛する人々が居ります。私はその人々に出會ひました。そしてその人々の存在することを、證言します。それでは、斯くも理性にみちたあなたの親しい善良な御心の最も熱烈な讚美者として、私を算へて下さい。妻はすぐにあなたを愛するやうになりました。そして、彼女は、あなたを私よりも理解はないのです。

私は非常に腸部を病んでゐるので、七月十七日に、エムスに六週間、九月まで過して行かうとしてゐます。私の療治で孤獨になる間、私が倦怠して辛抱しなければならぬことになるのは恐しいものです。それで、せめて、一行でも、手紙を書いてよこして下さい。(ドイツ、エムス、フィオドル・ドストイェフスキイ氏、郵便局留置)

あなたの夫に、私の深い尊敬をさしけます。さようなら、親愛なる××××、あなたと握手し、手に接吻します。アンナ・グリゴリエヴナは、あなたを非常に愛して、永久の忠實をあなたに呈してゐます。

あなたの

フィオドル・ドストイェフスキイ

あなたの御子さん達に、私を忘れないやうにさせて下さい。

N・N…嬢に

一八八〇年四月十一日 ハテルスブルグにて

非常に敬意を表し、且つ尊敬するN・N……

斯くもすばらしい親切な御手紙に、返事が非常に遅れたことを御許し下さい。それは、怠惰からであると信じないで下さい。私は、あなたに何か眞實な誠心のあるものを書かうと思ひました。けれども、誓つて言ひますが、私は殆ど自分ではないと思はれる程、私の生活は、非常な焦慮と不秩序な興奮の中に過ぎてゐるのです。そして、今、とうとうあなたに一瞬間の暇を撰んで手紙を書いてゐる時に、私があなたに通ぜんとする物の一小部分も、殆どお書きすることは出来ないと思つてゐます。あなたが心に抱いて居られる御意見を、私はうけ入れることが出来ません。あなたが、あなたの御母さんにおやりになつた御手紙の中で、御母さんが私に示された文句は、私を烈しく感動せしめました。心を打ちさへもしました。私は作家として、多くの缺點をもつてゐることを知つて居ります。何故と言つて、私が眞先きに、自分自身にひどく不満足です。數分間、自己を吟味して、私は言はんと欲する二十分の一も、文字通りに言ひ現はさなかつたこと、恐らく言ひ現はすことが出来なかつたことを、否認することは屢々困難であることを、あなたは御想像になることが出来ます。私は救ふ所のものは、私がつと完全に自

分を表現すること、即ち、私の心と想像の中にしてゐる一切のものを披瀝することが出来る程、多くの力とインスピレーションを、いつか神が送つて下さるだらうと言ふ習慣的希望にあるのです。最近主張された最後の博士論文の問題で、若い哲學者ヴラヂミル・ソロフイエフ(歴史家の子供)は、次の深い文句を響かせました、『私の深い信念によれば、(彼は言ひました)人類は、科學及び藝術に於いて、今迄言ひ表はすことが出来たものより、より一層多くのことを知つてゐるのである。』と。同じことが私にも起ります。私の中には、今迄、作家として言ひ表はすことの出来なかつた、より多くの秘密のものがあつたことを私は感じます。然し、偽りの謙遜なしに、私の表現したものの中には、既に心から生じた眞實のものが、いくらかあつたと思ひます。そこで、誓つて言ひますが、恐らく、私の價值以上に、私は多くの同情に遭遇したのです。然し、公けにされた文學批評が、私をほめることがあつても、(かなり稀に)私のことを、非常に軽々しく、皮相的に言つてゐるので、全く、苦痛を以て心から生じた所のもの眞に魂から流れた所のものを、全く注意してゐないやうに思はれました。それで、あなたがお母さんにおやりになつた御手紙の中で、私の讀んだ物程、作家たる私の深い微妙な觀賞は、如何程、私に愉快なものであるか、あなたは決論なさることが出来ませう。

然し、私があなたの中に認める深い同情ある御批評には、話し乍らさうしないことは困難であります。が、始終、私のことばかり御話しなさないで下さい。あなたは、私に、あなた御自分のこと、あなたの現在の精神の傾向を御話し下さい。あなたが藝術家であり、繪を書いてゐらつしやると言ふことを、

私は知つてゐます。私が心から、あなたに御忠告を言ふのを許して下さい。あなたの藝術を御捨てなさい。今迄より一層、藝術に身を萎ねて下さい。

私は知つてゐます、あなたが餘り御幸福ではないと言ふ噂を私はききました、(私を御許して下さい)孤獨に生活し、思出によつてあなたの心を苦しめ、あなたは、あなたの生活を餘りに陰鬱にされてゐられるのです。逃げ路、救済があります、藝術と創造です。あなたの告白に就いては、少くとも今は、書かうと決心なすつてはいけません。それは恐らく、あなたにとつて餘りに苦痛でせう。あなたに御忠告を許すのを許して下さい、然し、私は、せめて二言でも、口頭であなたに會つて喋りたいと思つてゐるのです。

あなたが私に手紙をお書きになつた後、私にとつて、あなたは非常に親しい人となり、私の心に近い存在で、心の妹となられました。あなたに對して、どうして同情を持たずにゐられませう。

あなたの二重性格と言ふことに就いて、あなたは何を仰るのですか。然し、それは、普通ではない人には、非常に普通な性格なのです。それは、一般に、人類の性質に共通な特徴です。然し、あらゆる人類の性質にも、あなたのやうに高い度まで、あることは全くありません。それですから、あなたは私には近い人です、何故と言つて、此二重性格は、私の中にあるやうに、私の中の全生活であつたかのやうに、正しくあなたの中にあるのですから。それは大なる苛責であると同時に、大なる喜びです。それは、強い良心で、自己解剖の要求で、自己及び人類に對する精神的義務を果すことです。二重存在の

意味する所は、即ちこれです。もし、あなたが智識的に、もつと發達してゐる、もつと束縛せられてゐたならば、あなたは、もつと自覺的にはならないでせう。そして、かゝる二重性格は、存在しないでせう。却つて、それは、あなたに大きな自惚れとなりませう。然し、それでも、此二重性格は、あなたには、苛責です。親愛なる深く尊敬するN・N……、あなたはキリストとその誓言を信じられますか。もし、あなたが御信じになるなら、(又、もし信じやうと欲せられるのなら、)全然、彼に身を任せて下さい、此二重性格の苛責はうすらぐでせう、そして、あなたの魂の爲に、大きな慰めを得られるでせう。そして、それが重大なことです。

あなたに斯様なだらしない手紙を書いたことを御許し下さい。然し、あなたが、私がどれ程、手紙を書くことが出来ないか、どれ程、それが私の負擔となるか御存知だつたら！ 然し、あなたが尙私に手紙を下さるなら、私は常にあなたに御返事を出ませう。あなたのやうな友を得て、私は失ふことを欲しません。暫らくは、さようなら。

眞心から忠實に、精神に近きあなたの友

エフ・ドストイェフスキ

〔餘白に〕私の手紙の外見や抹殺などを御許し下さい。

スタケンシュナイデル夫人に

一八八〇年七月十七日 ストラヤ・ルサにて

非常に尊敬するエレナ・アンドレイエヴナ、

あなたの六月十九日の美しい親切な御手紙に、かくも長く御返事しなかつたことに就いて、御許しを願ふのに、凡べてあなたの人道と寛容とに訴へなければなりません。然し、私は下のやうな事實を御考へになることを、あなたに御願ひませう。そこで、あなたは、私に對して寛大になることは、恐らく、あなたの権能内にあることを見出されませう。六月十一日、私は、モスコウから、ストラヤ・サルに歸つて、非常に疲れました、然し、直ちに、「カラマゾフの兄弟」に座りました。そして、一書きに、三帖書きました。MSに送つた後に、モスコウでの私の演説に關した凡ての新聞の論説を一生懸命でよみました。(私はその時まで非常に忙しかつたので、その暇がありませんでした。)そして、グラノフスキイに返事を書くことに決しました。それは、全ロシアの我々の信仰の宣言のやうになつて、彼の返事とはならなくなつたのです。何故と言つて、ブウシユキンの祝賀會の間、モスコウで自らを宣言した我々の會の生命に動ける至大なる危機と言ふのは、新聞によつて、故意に虚構せられて、わざと背景に突きこまれてゐるからです。我國の新聞、殊に、ペテルスブルグの新聞は、實に比類のない此新しい發達によつて驚かされてゐたのです。社會は明かに、ロシアに對して、嘲弄をしたり唾をしたりすることは、これで澤山だ、それで、何か他のものを望んでゐることを表はしました。然し、その事實は、勿論、歪められ、黙殺せられ、嘲笑され、虚構されなければなりません。何物もそんなものはない。それ

は、只贅澤なモスコウの宴會の後の一般の祝意である。あの紳士達は、單に、食ひ過したにすぎない。」と。私は既に、モスコウのモスコフスキイ・ギエドモスチ（譯者曰、モスコウ報知の意）に、私の演説をのせることに、そして、ベテルスブルグでは、直ちに後に、「日記」の雜誌を出版することに決しました。時に、今年は、それが只一つとなるでせうが、その號に於いて、更に序文をつけて、演説をのせやうと思ひました、その序文は、私が演説を終つたその瞬間に心に起つたもので、——アクサコフやその他と一所に於て、ツルゲネエフやアンネニフが突進して来て、我を接吻もて覆ひ、それから、私と握手し、繰り返しく、私がえらいことをしたといつた時、その瞬間に、ブラットフォムで考へついたことでした。神よ、彼らが尙同じ考へであらんことを許し給へ。彼らが、最初の熱中から恢復して、今、私の演説を如何に批評するか私ははつきりと想像が出来ます。

——そして、實に、これは、明かに私の序文の問題となるのです。序文を添へた演説がベテルスブルグの印刷者へ送られた時、否、私が現に、手中にその校正刷を持つてゐる時に、彼は、突然、私のグラノフスキイに對する信仰の宣言と言ふ形で、「日記」に尙他の章を書くことに決心しました。それは二帖になりました。昨日は、フェヂヤ（譯者曰、ドストイェフスキイの子）の誕生日でした。我々に御客様が來りましたが、私は客を外して座つてその論文を書き終へました。それで、只今、あなたに御返事を書いてゐることを、悪るいとおとりになつてはいけないことが御解りでせう。あなたがよく御存知の通り、私は

親密にあなたを愛してゐるのです。手紙で、私はモスコウの印象は決して書きますまい。今のやうな心持では尙更です。私には仕事がいっぱいたまつてゐます——それは實際つらい労働です。私は、どうしても「カラマゾフの兄弟」の第四篇と最後の篇とを九月に出さうと思つて居ります。そして、秋、ベテルスブルグに歸る時に、暫くの間、比較的自由の身となりませう。そのさつぱりした時に、來る一八八一年に着手せんとする「日記」の爲、準備にとりかゝらうと思ひます。

あなたの方は日曜の休日でせう。モスコウの報らせは、どうしてあなたに着きましたか。ガイエフスキイがあなたに何をいつたか、私は知りません。然し、カトコフとの事件は、少しも、あなたの御考へになつてゐるやうなものではありません。祝賀會をやつたロシア文學愛好者の會は、始めにカトコフが受けとつた招待状を返せといつて、カトコフに重大な侮辱を加へました。カトコフは、町會によつて催された宴會で、町會の頼みで、演説をしました。ツルゲネエフは、カトコフから先きに侮辱をうけたといふことに就いては、何らの根據もありませんでした。カトコフがかゝる苦痛を恐れることは、非常に正當なことでした。ツルゲネエフにとつては、彼が實際何物を恐れる必要のなかつた程、大仰山な待遇（コヴレスキイや大學の人々によつて）を用意されてあつたのです。ツルゲネエフが、第一にカトコフを侮辱したのです。カトコフの演説の後、イヴン・アクサコフのやうな人々が、彼とコツプをから合せて行つた時、（彼の反對者さへさうしました）カトコフはコツプを持つてゐる手をツルゲネエフに差し出しました、人々も亦コツプを觸れ合ふとしました。然し、ツルゲネエフは、その手を引いて、しませんで

した。ツルゲネエフは、自分でさう私に話したのです。

あなたは、私の演説をあなたに御送りするやうに請求なさる。然し、私はその寫しを一片も持つてゐません。その寫しは、「日記」が今、活字に組まれてゐる印刷屋の所にあるのです。「日記」は八月五日頃出るでせう。その號に、少し注意を與へて下さい。そして、私の親愛なる寄稿者アンドレイ・アンドレイエキツチにも、それを示して下さい。私も、彼の意見をききたいと思つて居ります。

あなたに忠實なる

(譯者曰、此手紙は前と同じく、メエンの英譯より譯せり。)

エフ・ドストイエフスキイ

イヴン・セルゲイエキツチ・アクサコフに

一八八〇年八月二十八日 ストラヤ・ルサにて

親愛なる尊敬するイヴン・セルゲイエキツチ、私はあなたの始めての御手紙に、直ちにお答へしやうと思ひました。そして、今、私にとつて非常に尊い第二の御手紙をうけとつて、私は澤山詳細に渡つて話すべきことを認めました。あなたが今なすつたよりも眞實で、興味に満ちた批評には、私は一生涯の中今迄出合つたとがありませんでした。私は、斯様な批評が存在し得るものであるかと思ふのさへ忘れ

てゐました。それは、私が絶対にあなたの御意見と同じであると言ふ意味ではありません。然し、次のやうな事實があります。私は「日記」の發行で二年間經驗をつみましたが、多くの事柄に就いて、大きな疑惑に陥つたと言ふことです。それはかう言ふと、如何に言ふべきか、如何なる調子で、それを言ふべきか、そして、全然、言ふべからざることは何かと言ふことです。あなたの御手紙は、かゝる疑惑に私を陥れました。何故と言ふに、私は、來年は、眞面目に、「日記」を繼續しやうと言ふ意志をもつてゐるので、それです。私は身をもがき、私に力と處世術を送つて下さいとお頼みすべし神に祈りをさしけるのです。それで、私はあなたをもつたことを恐ろしく嬉しく思ひます。——何故と言つて、今、私は、自分の疑惑の一部をあなたに披瀝することが出来ると思つてゐるのですから。そして、あなたは常に、深く眞面目な聰明な言葉を私に仰るので、私はそれを認めました。あなたの二通の御手紙で、それが解りました。然し、こゝに不幸なことがあります。あなたに物事を悪くないやうに書かねばなりません。そして、今は、私は自由ではありません。そして、書くことが出来ません。私は苦役をしてゐるやうに、夜も晝も、どれ程、急がしいか、あなたは御想像も出来ませぬ。何故と言ふに、私は、正しく、「カラマゾフの兄弟」を書き終る所です。従つて、私としては、非常に重きをおいてゐる著作の總計を作るのです。何故と言つて、私は、その中に、私や、私のものを多く注ぎこんだのですから。私は殆どいつも、神経質に、苦るしく、心配して、働いてゐます。私が餘りに働かざる、私は肉體的に病氣にさへもなります。今は、三年の間、思索せられ、構圖を組み立て、注意せ

られた所のものゝ勘定をしなければなりません。よくそれをしなければなりません。即ち、なすことの出来る文のことをです。私は、金の爲に急いでする仕事を知りません。私は、それでも、完結にすべき時、猶豫なく終らねばならぬ時は來ました。信じて下さい、——此三年の間に、凡てのものが心に銘せられてゐるに係らず——直ぐに書いてある章は、無駄となつて、更らに／＼に書くことになつたのです。忽ち、一時に起つたインスピレーションのあつた個所に過ぎませんが、その餘のことも、非常に困難な仕事でありました。それですから、今、直ぐには、如何に熱心に望んでも、あなたに手紙を書くことは出来ません。私の気分はいつも同じではありません、それから、私は觀念の順序を亂すことを欲しませんが、私は、來月十日頃、あなたに書きませう。(九月)問題は困難です、それにはつきりと披瀝しなければなりません。それですから、あなたを、私をお怒りになつたり、これを冷淡であるとお取りになつてはいけません。そんな時、あなたはどれ程、間違つて御考へなさるか、御存になつたら！今は、私はあなたを眞實に接吻し、眞心から、あなたに感謝します。あなたは私にとつて必要です。そして、私はあなたを愛せずにはゐられません。

眞實にあなたの

エフ・ドストイェフスキイ

フラゴンラフオフ醫師に

一八八〇年十二月十九日　ホテルスツルグにて

非常に尊敬するアレクサンドル・フィオドロギッチ、

あなたの御手紙を感謝致します。(譯者曰、「カラマゾフの兄弟」の最後の章、イヴンの幻覺の傑れた描寫に就いて、醫師がドストイェフスキイに手紙を出し意見を述べたるなり。)私が不信仰と言ふことに、惡ろい動機を認め、國家を否定するものは、また宗教を否定するものであると言ふことを、あなたは判斷なされたに相違ありません。我國に於いては、それは斯様に違ひありません。何故と言つて、我國家は、キリスト教の上に建てられてゐるからです。「正統派のロシア」と言ふ語、農民に附けられたるキリスト教徒的なる總稱は、我國に於て、根本的基礎なのです。我國に於いて、國家を否定するロシアは、(澤山居ります)必然的に無神論者か、若しくは宗教に冷淡なものです。ひるがへつて、あらゆる無神論者や冷淡な者は、絶対にロシア民衆やロシア國家を理解することは出来ないと、永久に出来ません。最重要の問題は、如何して我が智識階級をしてそれに同意せしめるかと言ふことです。

そのことを話すことを努めませう。彼らは、あなたを貪り食ひませう、又は、あなたを謀反人と見做すでせう。然し、誰に對しての謀反人ですか。彼らに對して、即ち、空中に身をおく名前をつけるに苦しむものにです、何故と言ふに、彼らは、それを如何に名づくべきか想像だも出来ないのです。民衆に對して謀反人と言ふのですか。否、私は民衆と共にゐることを撰ぶものです。何故と言つて、それからのみ一人、あるものを期待することが出来るのです。否定の民衆で、利巧ではないロシアの智識階級か

らは、期待はしません。

然し、新しい智識階級は出現してゐます。それが民衆と共に居らんと欲するのです。そして、民衆と密接なる結合の最初の徴候は、民衆全體の宇宙の一切のもの以上に愛し尊ぶもの、即ち、神とその宗教に對する尊敬と愛なのです。

新らしきロシアの智識階級は來り、頭を擡げてゐると私は信じます。それは、正しく共同の事業に必要なものであるやうに思はれます。そして、それは民衆を理解し始めるでせう。

今、私は神と國家とを宣言してゐるので、人々は私を全滅せしめんと非常な努力をしてゐます。醫者として、あなたが非常に喜んで下つた「カラマゾフの兄弟」のあの章(幻覺に就いて)の爲めに、人々は、もう、私をば、時代逆行家で、「尾をはやした悪魔を引き出してくる」までに書く異教徒であると呼ぼうと試みました。彼らは、凡てのものが、「何だつて？ ドストイェフスキイが悪魔のことを書いてゐる？ あゝ、何と言ふ醜いことだ。あゝ、彼は殆ど進歩しない！」と叫ぼうとしてゐるのだと子供らしく想像してゐます。然し、私は、彼らがこんなことで成功はしなかつたと信じてゐます。

此人物の精神的病氣の詳細な描寫に就いて、醫者として御報らせ下つたことを、殊に感謝して居ります。鑒定人たる意見は、私を支持してくれませう。此人物(イヴン・カラマゾフ)は、その場合に、此幻覺の外は、如何なる幻覺も見ることが出来なかつたといふことを、同意して下さい。私は、後に、未來の「日記」の中で、此章を批評的に自ら解釋したいと思つて居ります。

下 翁 書 翰 集

大正十年八月五日印刷
大正十年八月八日發行

定價金四圓也

編輯兼發行人

ドストイェフスキイ全集刊行會

代表者 鷲尾 浩

印刷者 宮田 龜 六

印刷所 大 社 成

東京市神田區西小川町二ノ六

發行所

東京市日本橋區
本町三丁目番地

冬 夏 社

電話本局 三 一 一 二
振替東京 四 五 四 四 六



不 許
復 製

21795



506

80

終